

# 第1章 都市の現況

## 1-1 伊勢市の概要

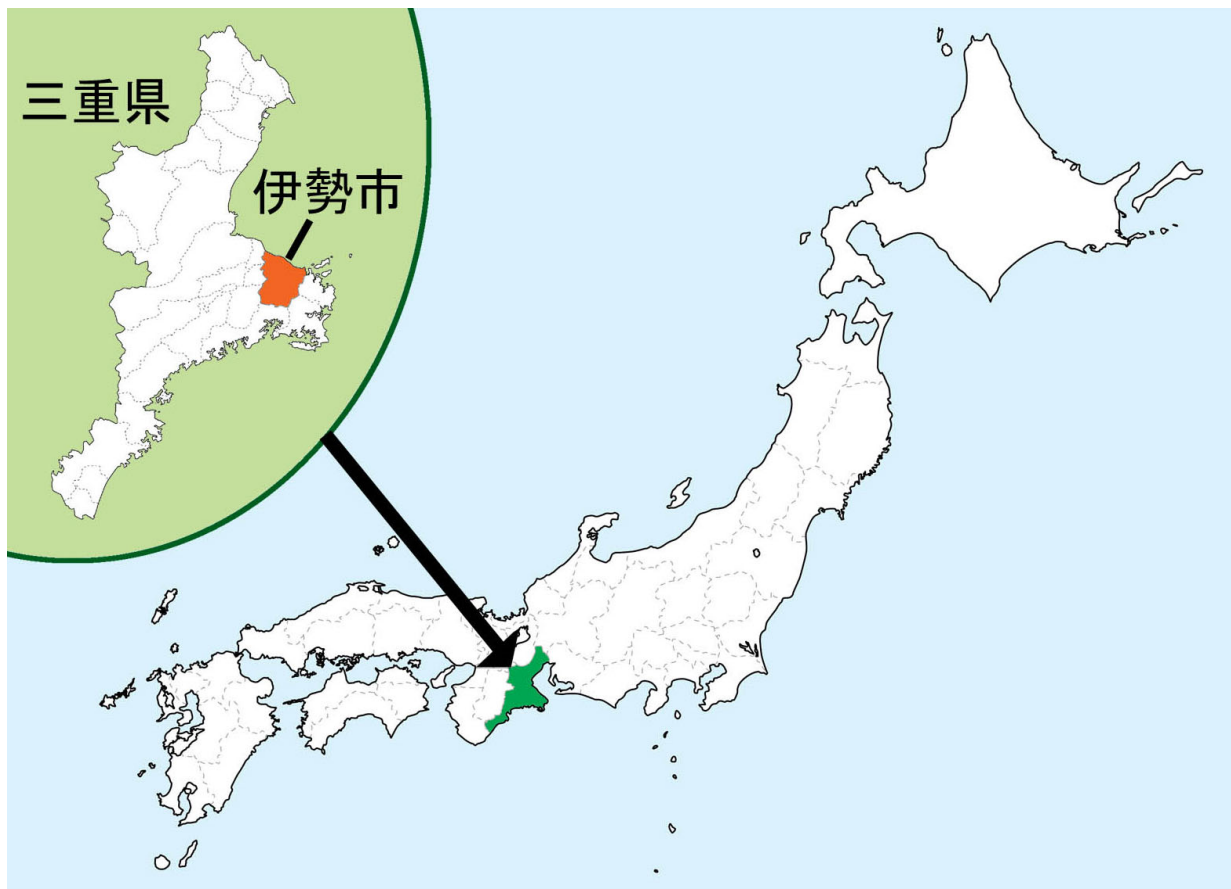
伊勢市は、三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置する、比較的温暖な気候に包まれた都市です。伊勢志摩国立公園の玄関口にあたり、北は伊勢湾に面し、中央には宮川や五十鈴川、勢田川が流れ、東から南にかけては朝熊ヶ岳、神路山、前山、鷲嶺が連なり、西には大仏山丘陵が広がる緑豊かな都市です。

また、古くから「お伊勢さん」「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた伊勢神宮を擁し、神宮御鎮座のまちとして栄えてきました。

さらに、関西地方、東海地方の両方面との広域的な公共交通網として、JR 参宮線、近畿日本鉄道が整備され、大阪や名古屋といった大都市圏からの良好なアクセスが確保されており、多くの観光客が訪れる観光都市です。

平成17年11月1日、旧伊勢市・旧二見町・旧小俣町・旧御園村の4市町村が合併し、新たな伊勢市が誕生しました。これまでに、豊かな緑や海の恵み、歴史・文化、都市の活力を支える商工業など、それぞれの地域が持つ様々な地域資源や個性を活かしたまちづくりを進めています。

### ■伊勢市の位置



## 1-2 人口の動向

### (1) 人口の推移

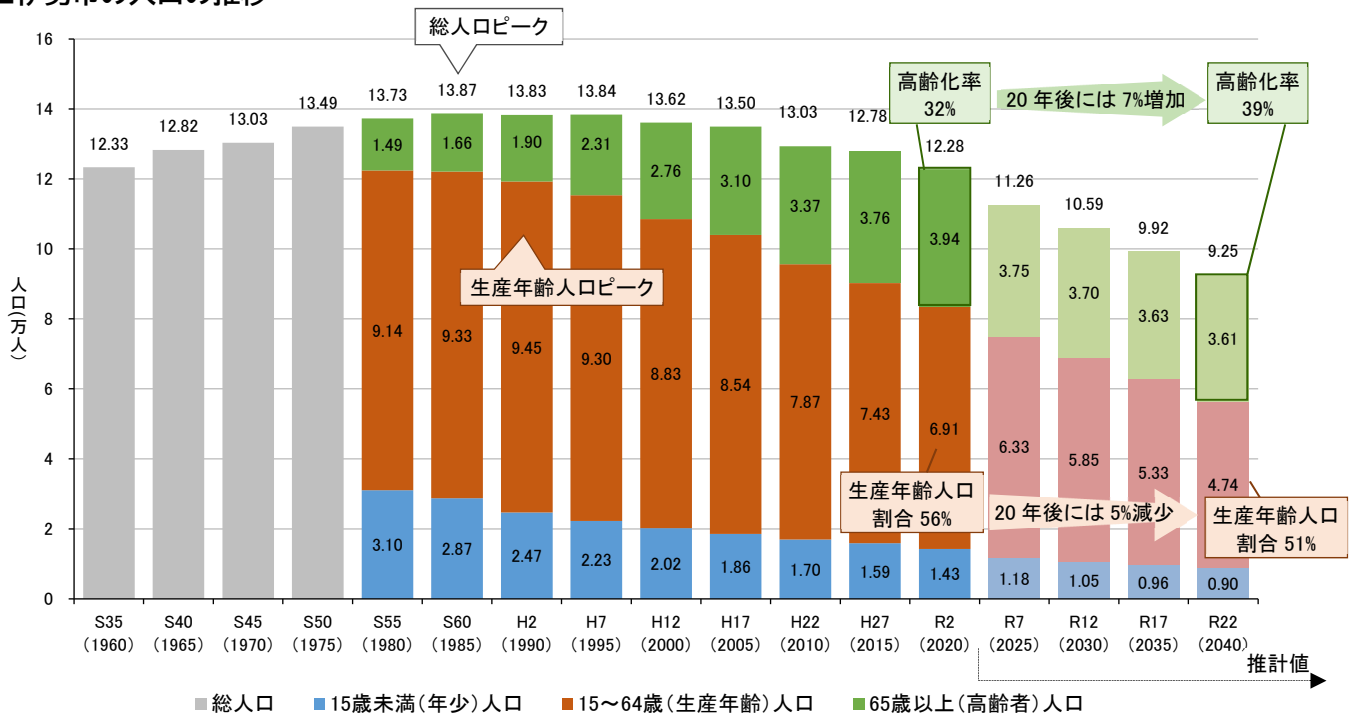
伊勢市の人口は昭和 60（1985）年にピークを迎え、そこから概ね 10 年は横ばいで推移した後、減少へ転じており、令和 2（2020）年時点の総人口は、122,765 人となっています。

今後、人口が大きく減少していくことが予測される中、平成 22（2010）年国勢調査の結果に基づき算出した人口推計をみると、年少人口及び生産年齢人口の減少が顕著となります。

また、現在では微増している老年人口についても、令和 2（2020）年にピークを迎え、その後減少に転じ、年齢 3 区分別でみた場合においても、全ての世代で減少することが予測されています。

また、年齢 3 区分別の割合をみると、令和 2（2020）年時点において 32%となっている高齢化率は令和 22（2040）年には 39%となり、生産年齢人口については 51%となることが予測されており、高齢化の人口構造が到来することとなります。

#### ■伊勢市の人口の推移

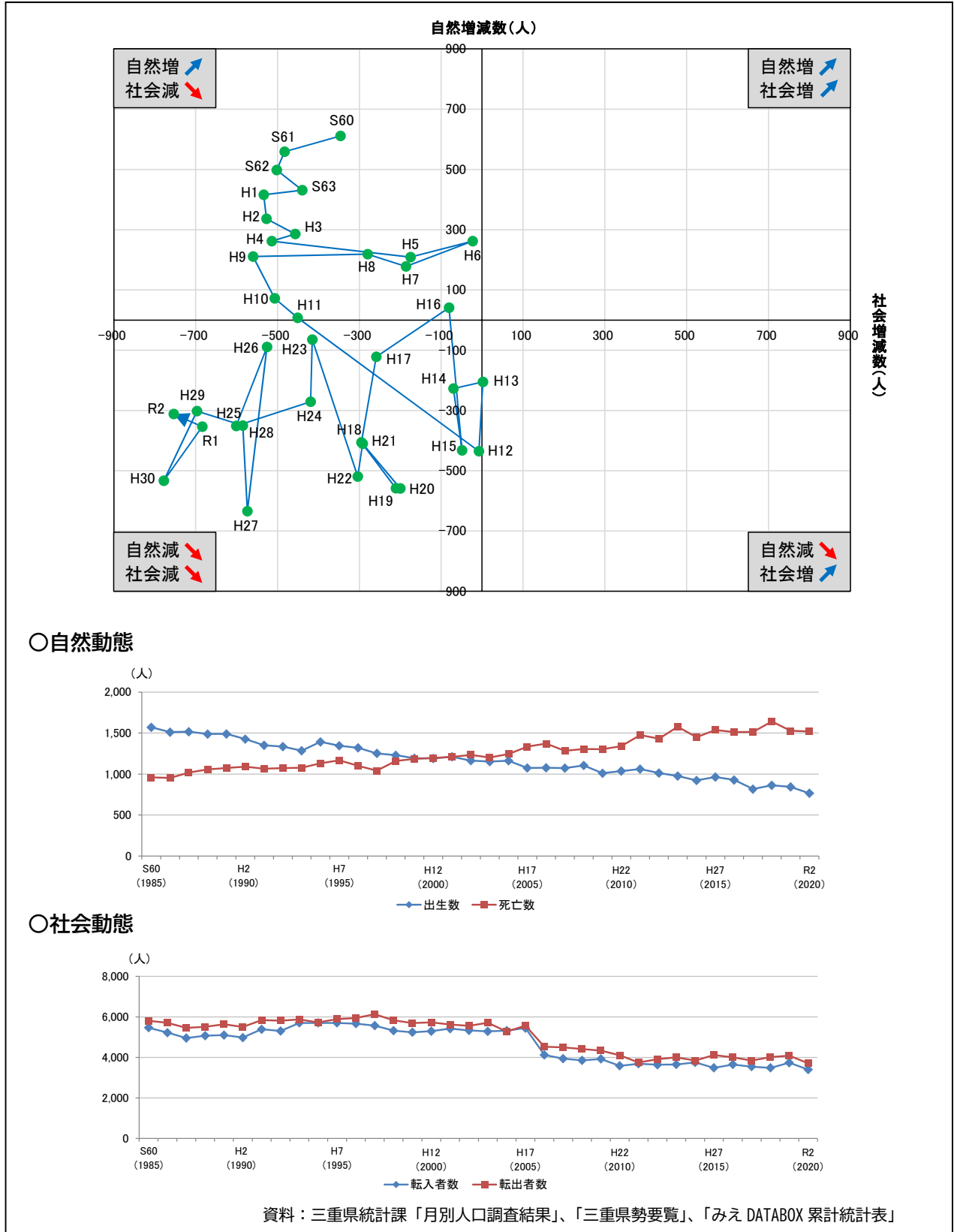


※平成 17（2005）年までは、旧伊勢市、旧二見町、旧小俣町、旧御園村を合算  
 ※平成 27（2015）年及び令和 2（2020）年の年齢 3 区分別人口は、総人口に年齢不詳を除く人口割合を乗じて算出した値  
 資料：(実績値) 国勢調査、(推計値) 国立社会保障・人口問題研究所/日本の地域別将来推計人口（平成 25（2013）年推計）

(2) 人口動態

伊勢市では、長期にわたり転出超過が続いています。近年では、これに加え自然減少も顕著となり、人口減少が本格化しています。

■伊勢市の人口動態



## 第1章 都市の現況

### (3) 人口密度

用途地域別の人口をみると人口の約半数が住居系の用途地域、約1割がその他の用途地域、約4割が用途地域外に居住しています。

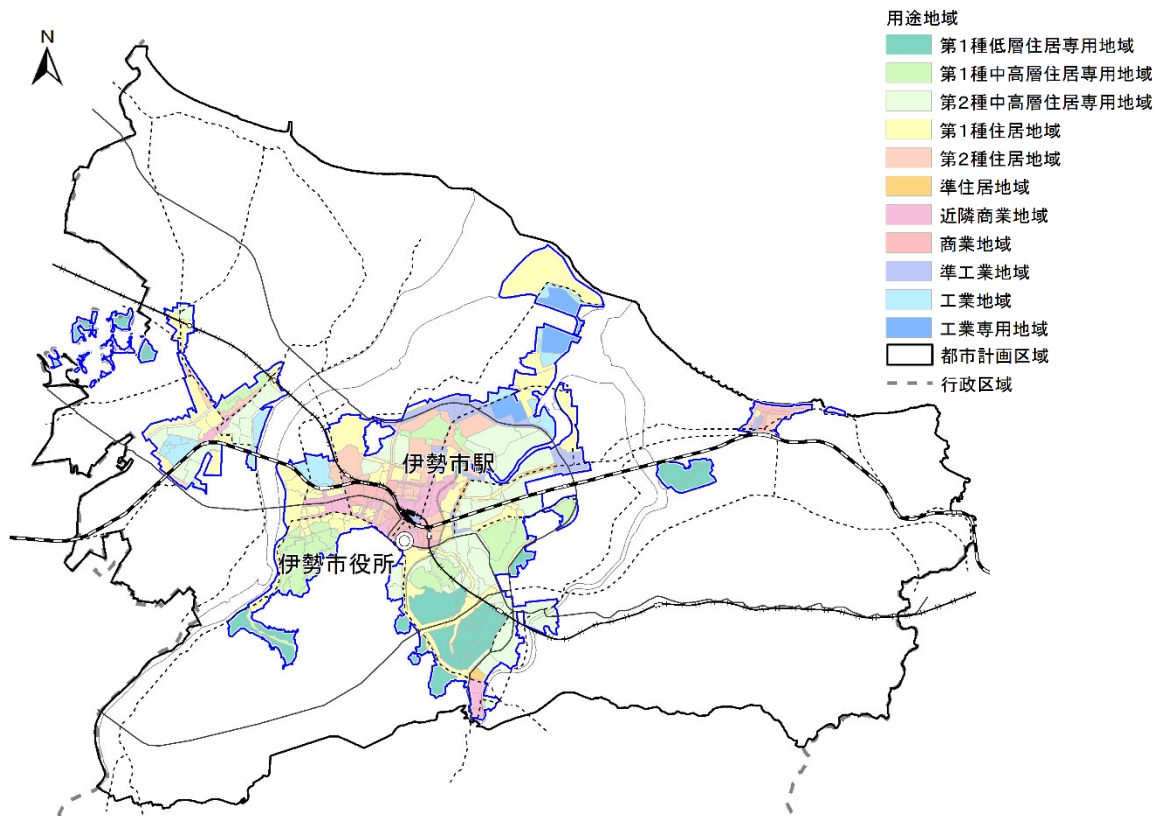
人口密度については、住宅等が建築できない工業専用地域を除く用途地域内では約35人/haであり、都市計画法施行規則における既成市街地の区域の基準となる40人/haが確保できているのは、第一種住居地域のみとなっています。

#### ■用途地域別の人口及び人口密度（平成30年時点）

	項目	人口 (人)	人口 割合	面積 (ha)	人口密度 (人/ha)	人口 (人)	人口 割合	面積 (ha)	人口密度 (人/ha)
住居系	第一種低層住居専用地域	10,117	8%	266.6	37.9人/ha	65,063	52%	1,782	36.5人/ha
	第一種中高層住居専用地域	8,160	6%	248.0	32.9人/ha				
	第二種中高層住居専用地域	16,317	13%	497.7	32.8人/ha				
	第一種住居地域	23,797	19%	572.9	41.5人/ha				
	第二種住居地域	6,414	5%	184.7	34.7人/ha				
	準住居地域	258	0%	11.8	21.9人/ha				
商業系	近隣商業地域	5,826	5%	149.1	39.1人/ha	8,147	6%	208	39.2人/ha
	商業地域	2,321	2%	58.6	39.6人/ha				
工業系	準工業地域	1,918	2%	97.8	19.6人/ha	3,074	2%	271	11.3人/ha
	工業地域	937	1%	107.2	8.7人/ha				
	工業専用地域	219	0%	66.3	3.3人/ha				
集計	用途地域合計	76,284	61%	2,261	33.7人/ha	76,284	61%	2,261	33.7人/ha
	用途地域合計(工業専用地域を除く)	76,065	60%	2,194	34.7人/ha	76,065	60%	2,194	34.7人/ha
	用途地域の指定のない区域	49,555	39%	9,715	5.1人/ha	49,555	39%	9,715	5.1人/ha
	伊勢都市計画区域(伊勢市のみ)合計	125,839	100%	11,992	10.5人/ha	125,839	100%	11,992	10.5人/ha

資料：平成30年度都市計画基礎調査

#### ■用途地域指定状況（平成30年時点）



(4) 人口分布

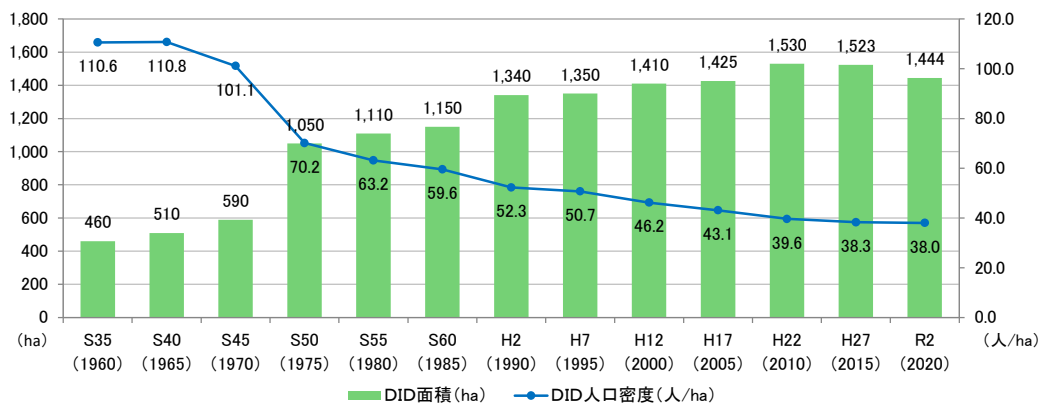
① 人口集中地区の変遷

人口集中地区 (DID) ※の面積は、昭和 35 (1960) 年には伊勢市駅周辺から山田上り駅周辺等の 460ha でしたが、平成 22 (2010) 年に 1,530ha まで拡大した後、縮小に転じ、令和 2 (2020) 年には 1,444ha となっています。

人口密度は 110.6 人/ha から 38.0 人/ha へ大幅に減少しており、地区内の低密度化が進行しています。

■人口集中地区 (DID) の推移

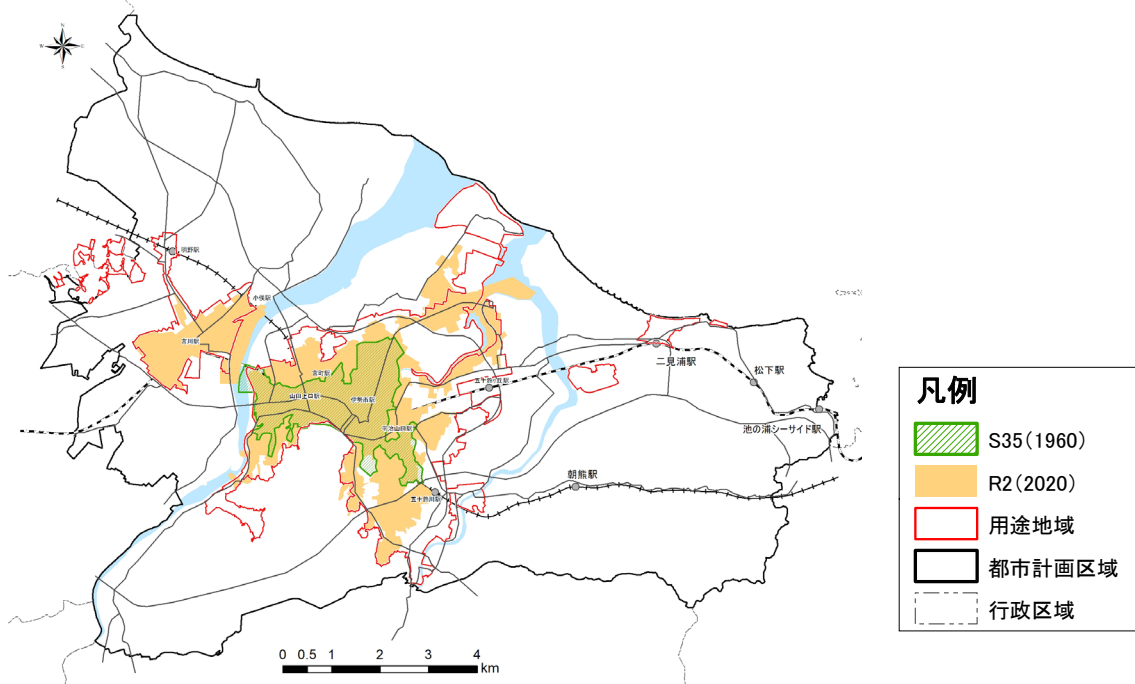
	S35 (1960)	S40 (1965)	S45 (1970)	S50 (1975)	S55 (1980)	S60 (1985)	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)
総人口	123,311	128,242	130,326	134,910	137,296	138,672	138,298	138,404	136,173	134,973	130,271	127,817	122,765
DID人口(人)	50,858	56,485	59,665	73,661	70,097	68,512	70,042	68,511	65,172	61,429	60,664	58,359	54,923
DID面積(ha)	460	510	590	1,050	1,110	1,150	1,340	1,350	1,410	1,425	1,530	1,523	1,444
DID人口密度(人/ha)	110.6	110.8	101.1	70.2	63.2	59.6	52.3	50.7	46.2	43.1	39.6	38.3	38.0



※平成 17 (2005) 年までは、旧伊勢市、旧二見町、旧小俣町、旧御園村を合算

資料：国勢調査

■人口集中地区 (DID) の変化 昭和 35 (1960) 年と令和 2 (2020) 年の比較



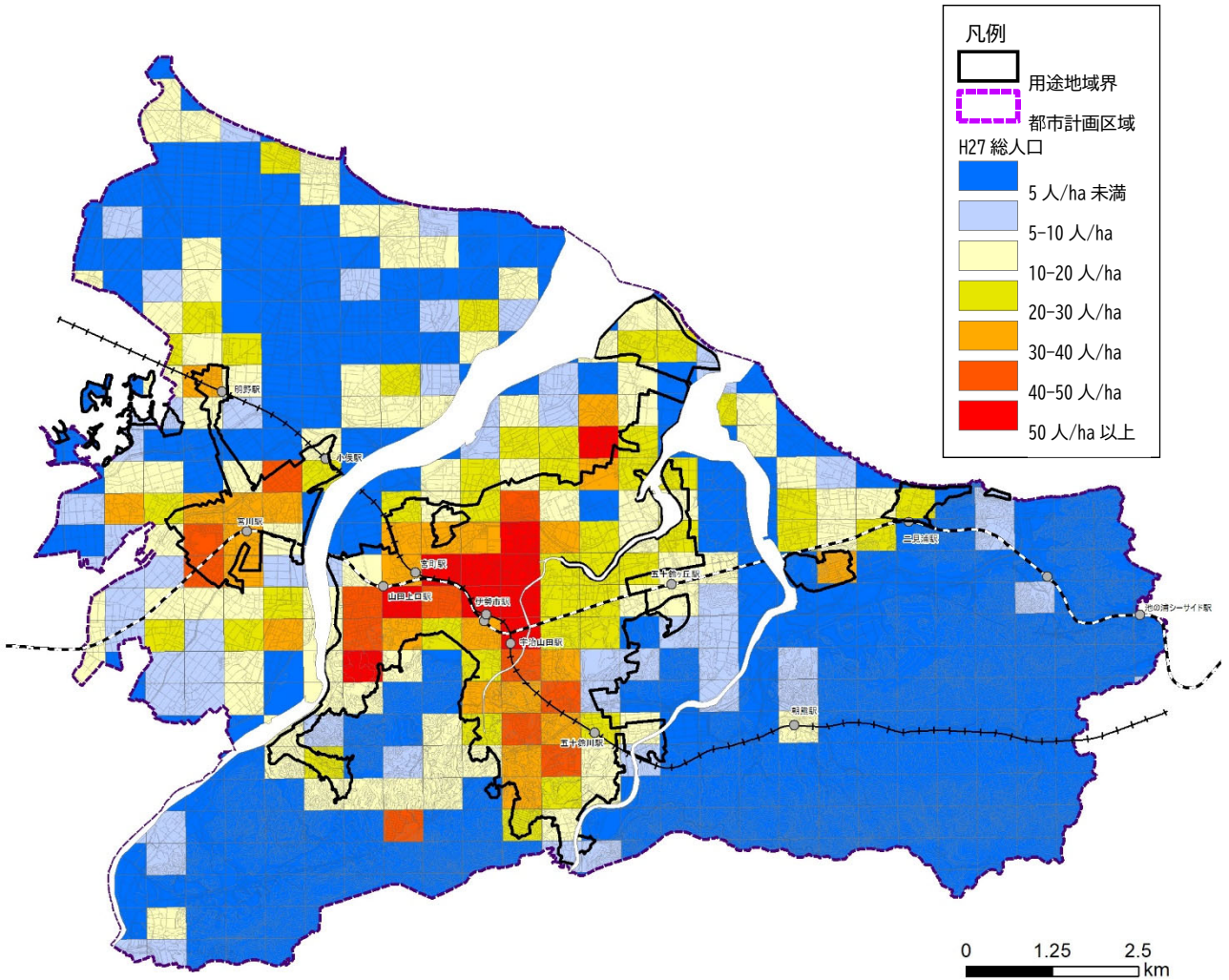
※人口集中地区 (DID)：国勢調査の結果を基に指定され、一定規模の人口を有する地区

## 第1章 都市の現況

### ② 人口密度の分布

伊勢市の人口密度は、伊勢市駅・宇治山田駅周辺から山田上口駅・宮町駅周辺で最も集積しています。また、宮川駅周辺においても人口の集積がみられる一方で、人口密度の分布は広く拡散し、用途地域内においても40人/haを下回る地域が多くある状況です。

#### ■現況人口密度分布（平成27年）



資料：国勢調査

※令和4年6月時点で公表されていた平成27年国勢調査のメッシュデータを使用しています。

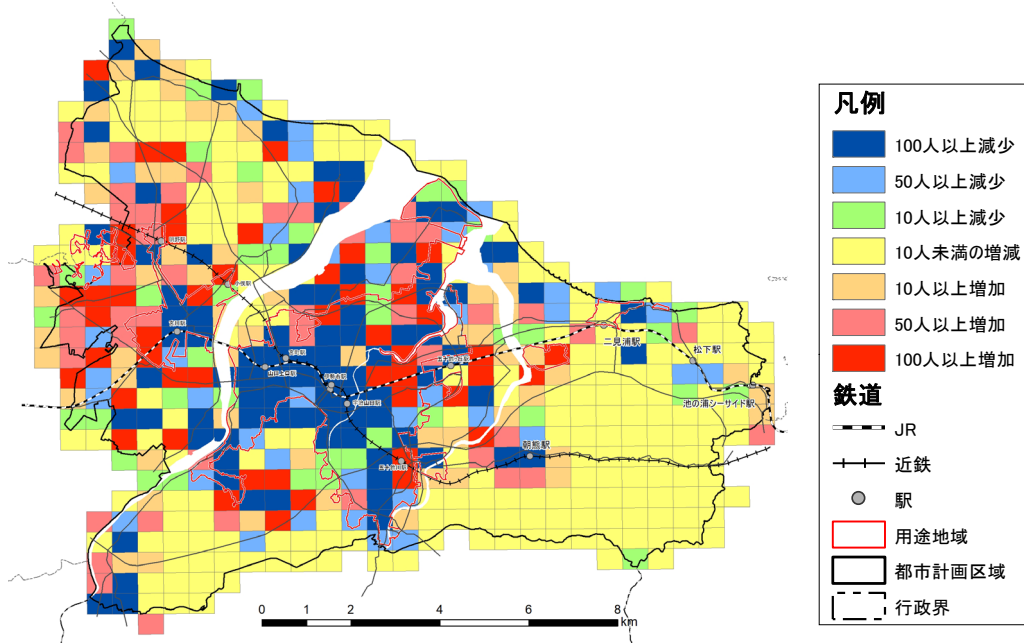
③ 人口の増減の分布

平成12年から平成27年における人口の増減の分布状況を見ると、人口集中地区（DID）において人口の減少量が多い一方で、用途地域外において人口が増加している地域が広く分布しています。

また、明野駅や小俣駅、五十鈴川駅周辺の用途地域内において人口が増加している地域がみられます。

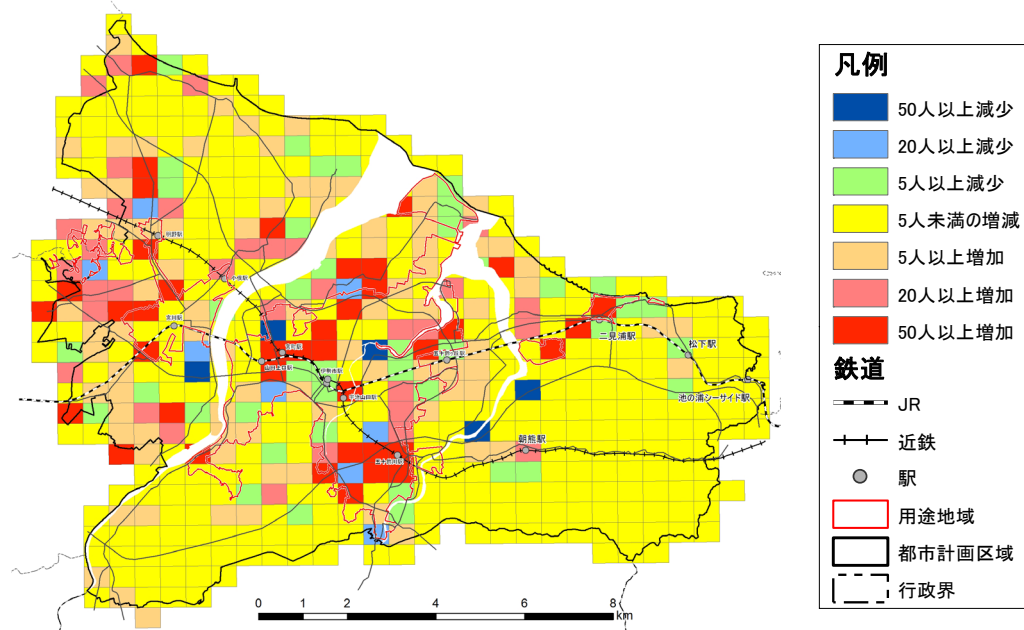
高齢者については、宇治山田駅から山田上口駅周辺など古くから市街地が形成された中心部では、既に高齢化が進行していることや人口減少等の要因により減少している一方で、用途地域外縁部や用途地域外で新たに形成された市街地においては増加しており、今後もこの傾向が続くと考えられます。

■人口増減分布（平成12年～平成27年）



資料：国勢調査

■高齢者人口増減分布（平成12年～平成27年）



資料：国勢調査

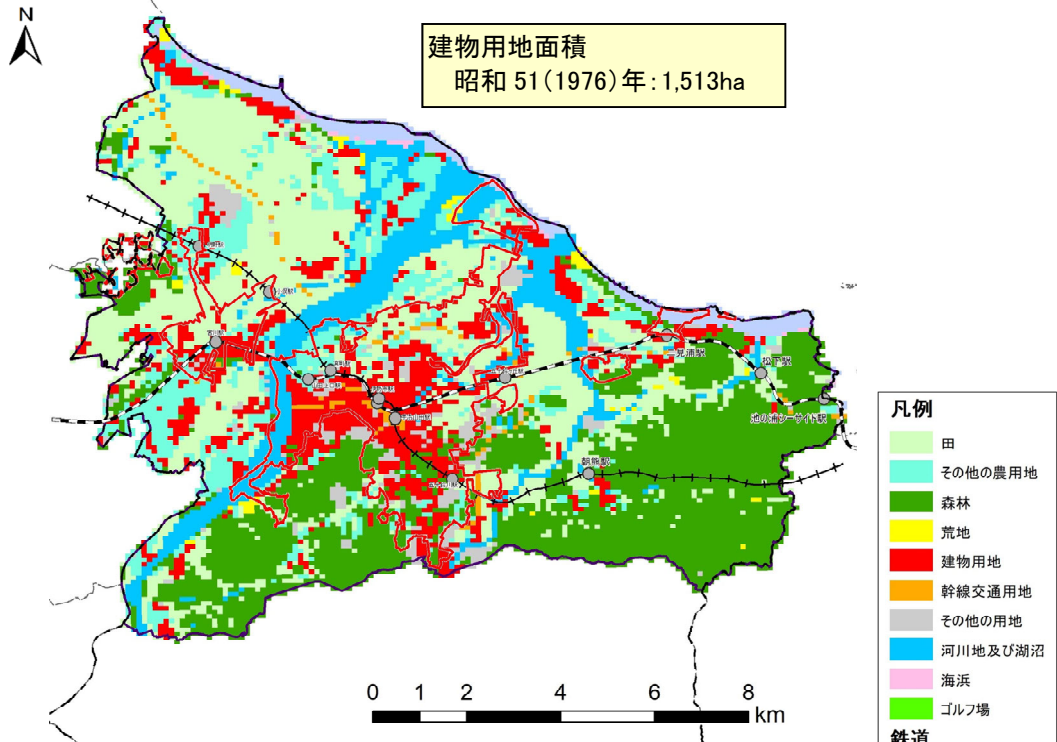
※令和4年6月時点で公表されていた平成27年国勢調査のメッシュデータを使用しています。

## 1-3 土地利用・開発の動向

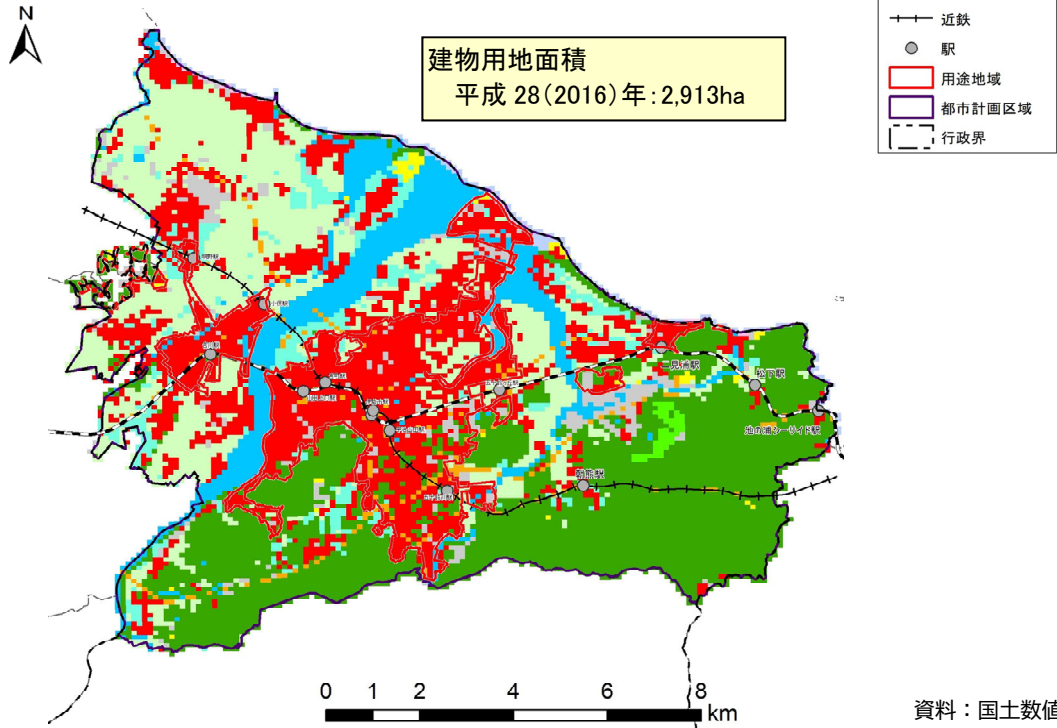
### (1) 土地利用の推移

土地利用の状況を見ると、昭和51(1976)年から平成28(2016)年までの40年間で建物用地面積が約2倍になり、市街地が拡大してきました。また、用途地域外で点在する集落を中心に、建物用地の広がりがみられる一方で、用途地域内にも一団の農地が広がっている箇所もみられます。

#### ■都市的土地利用の状況 昭和51(1976)年



#### ■都市的土地利用の状況 平成28(2016)年



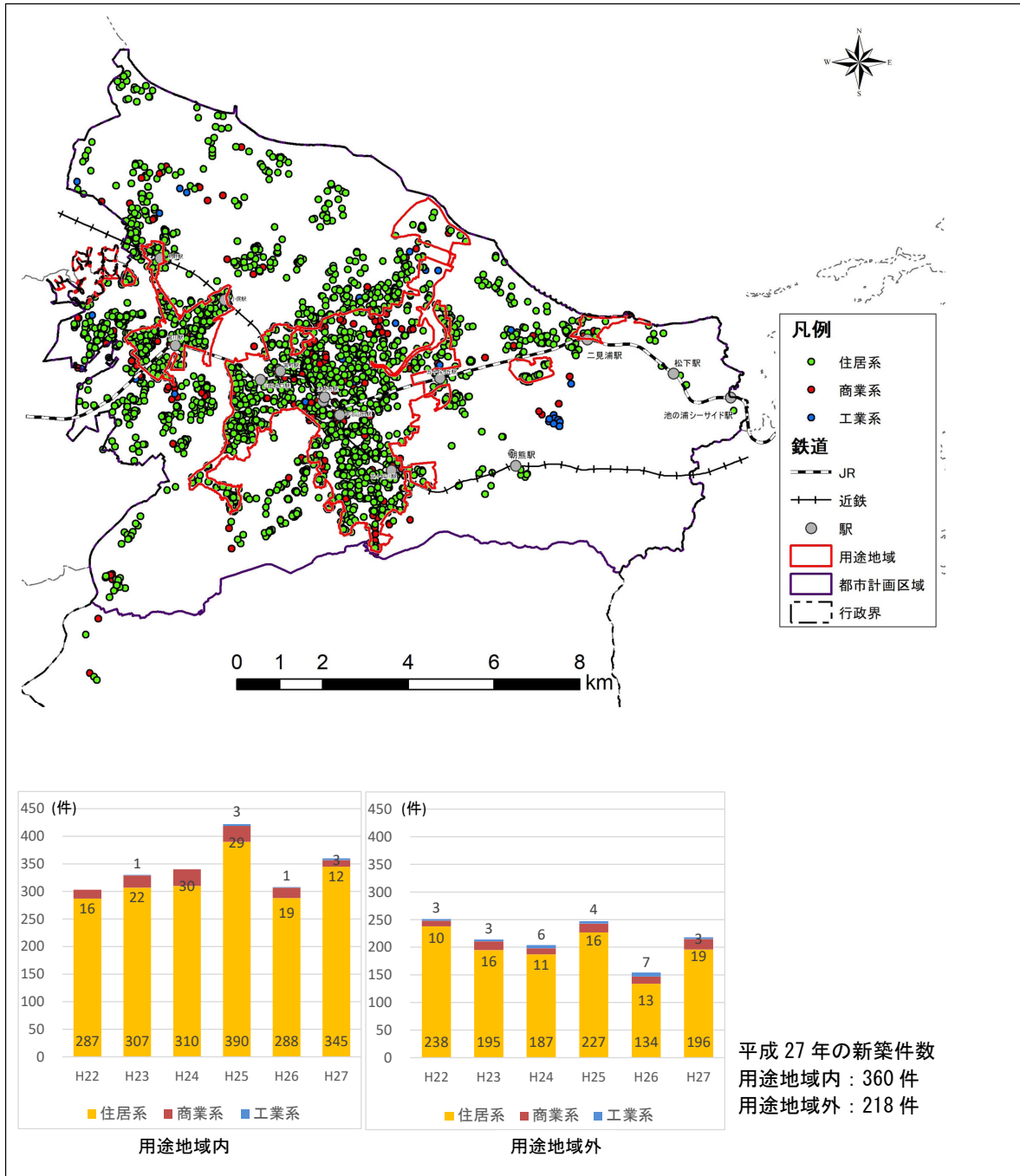
資料：国土数値情報



(2) 用途別新築状況

用途別新築状況を見ると、住居系の新築が最も多く、次いで商業系、工業系となっています。  
用途地域内外の関係をみると、全体の約4割が用途地域外での新築です。

■用途別新築状況（平成22年～平成27年）



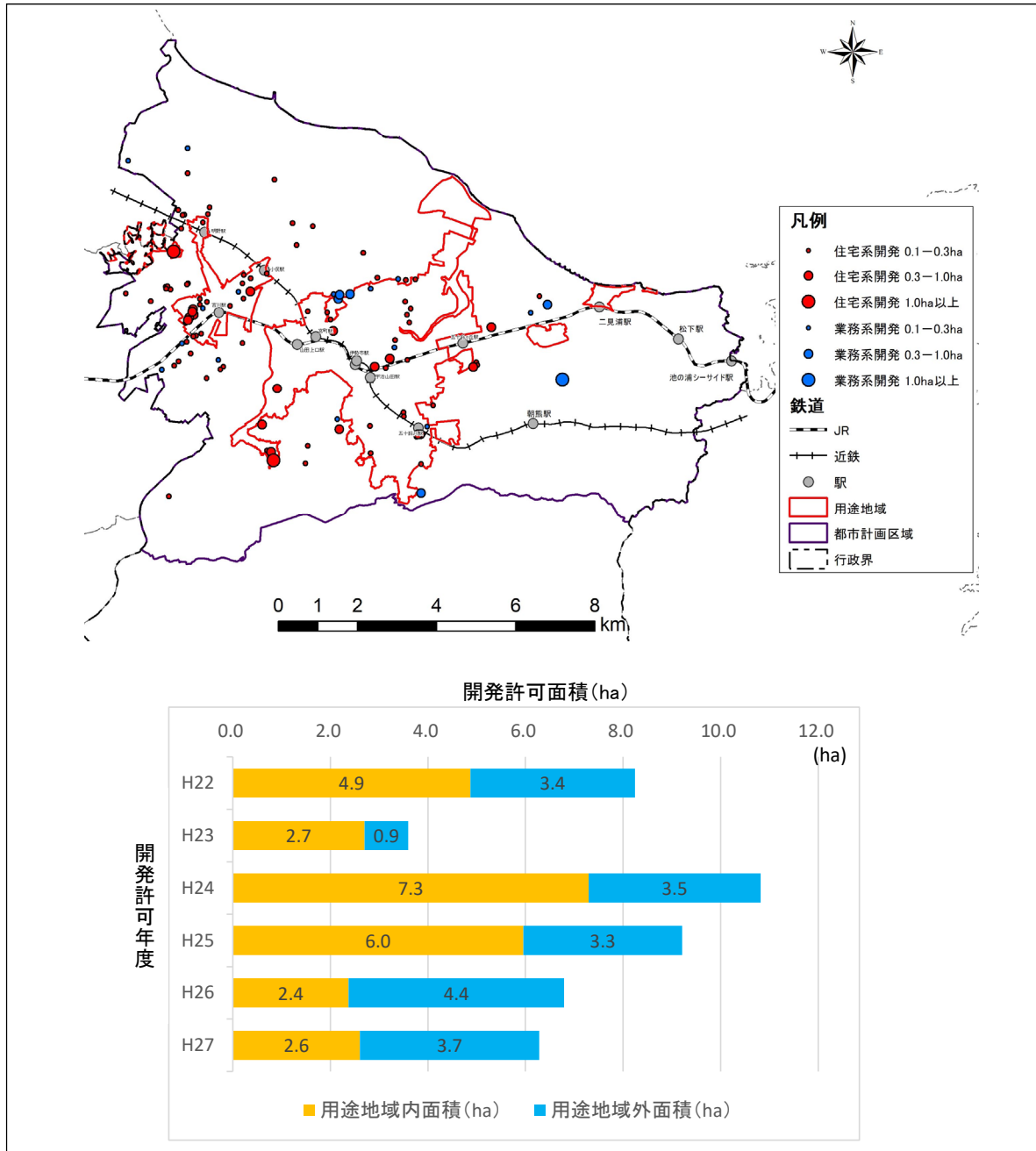
資料：平成28年度都市計画基礎調査

## 第1章 都市の現況

### (3) 開発許可の状況

平成22年から平成27年における開発許可面積の推移をみると、年度によって用途地域内外の面積にバラツキがみられます。また、開発許可の分布状況をみると、用途地域内でも開発はみられるものの、大部分が用途地域外縁部及び用途地域外に分布しています。

#### ■開発許可の状況（平成22年～平成27年）



資料：平成28年度都市計画基礎調査

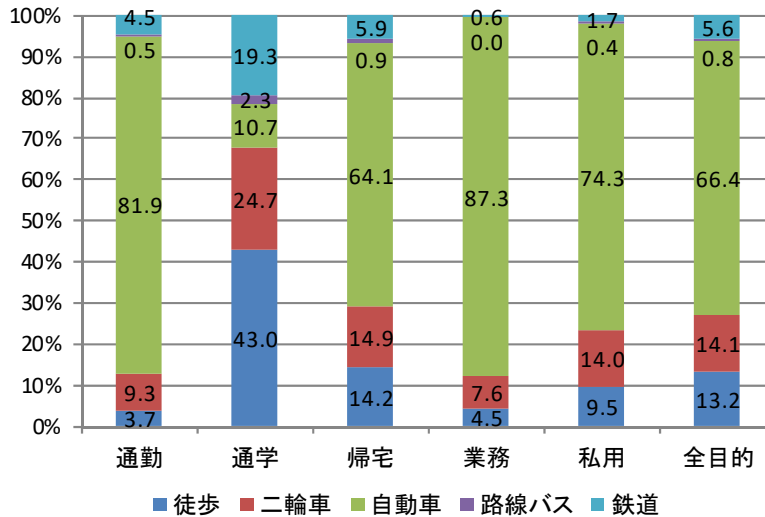
## 1-4 交通環境の状況

### (1) 市民の移動実態

目的別代表交通手段をみると、通学を除いて自動車分担率が非常に高く、徒歩や公共交通機関の利用が少ないことから、自動車に依存した地方都市の特徴が読み取れます。

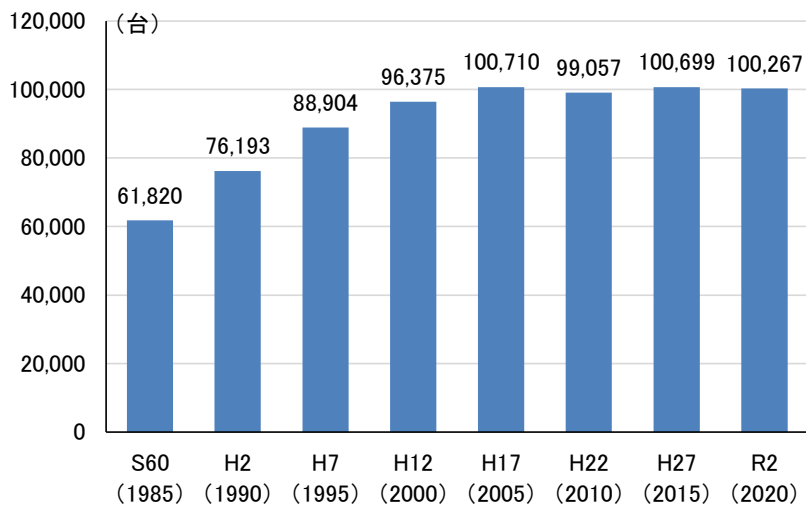
また、近年の自動車保有台数は概ね横ばいで推移しています。

#### ■目的別代表交通手段



資料：平成17年中南勢PT調査

#### ■自動車保有台数



資料：(社)日本自動車販売協会連合会三重県支部「三重県自動車数要覧」

## 第1章 都市の現況

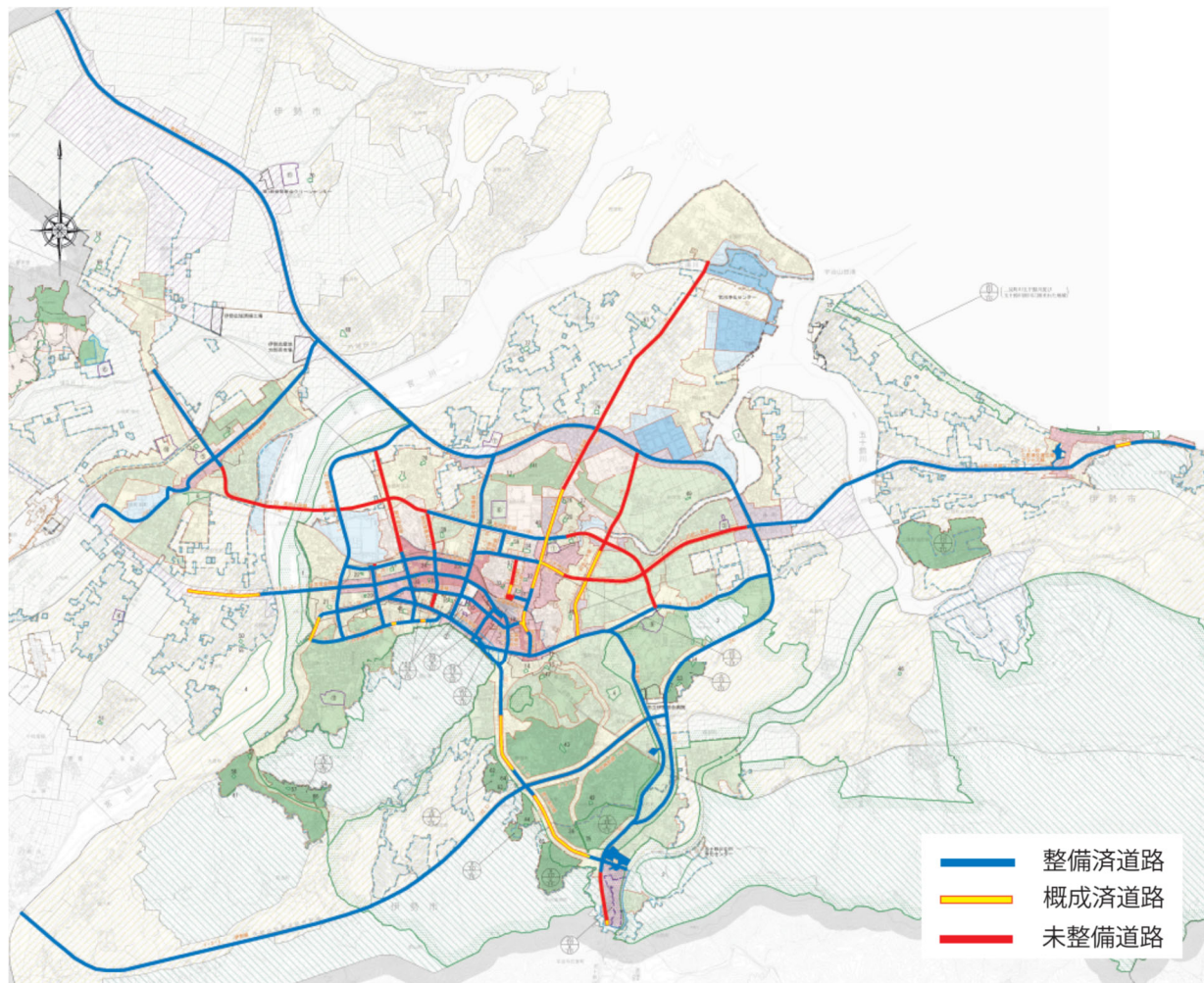
### (2) 市内交通網

#### ① 都市計画道路

伊勢市では、29路線（81.3km）の都市計画道路を計画決定しており、令和3年度末時点で、整備済が約77%、概成済<sup>※</sup>が約8%、未整備（計画）が約15%となっています。主に、伊勢市駅から沿岸部へ連絡する南北の路線が概成済又は未整備となっています。

また、特に JR 参宮線及び近鉄山田線によって、交通流の南北分断が顕著となっています。

#### ■都市計画道路の整備状況



※概成済：現況が概ね計画幅員の2/3または4車線以上の幅員を有する道路

## ② 公共交通網

伊勢市内の公共交通は、以下の路線等により構成されています。

## ■伊勢市内の公共交通路線網の概要

手段	運行事業者	路線名等
鉄道	① J R 東海	・参宮線（多気～伊勢市～鳥羽）
	② 近畿日本鉄道	・山田線（伊勢中川～松阪～伊勢市～宇治山田） ・鳥羽線（宇治山田～五十鈴川～鳥羽）
路線バス	① 三重交通(株)	・路線バス各路線 ・伊勢・二見・鳥羽周遊バス CANばす ・参宮バス
	② 三交伊勢志摩交通(株)	・有滝線、伊勢玉城線
コミュニティバス	① 伊勢市	・おかげバス【6路線】 （東大淀・明野・小俣、御蔭、辻久留・藤里、鹿海・朝熊、二見、環状） ・おかげバスデマンド【2路線】 （小俣・粟野、御蔭・小木・田尻） ・沼木バス（自家用有償旅客運送）
		・高速鳥羽・大宮線（鳥羽～大宮） ・特急バス路線 津伊勢空港連絡線（鳥羽～空港アクセス港）
高速バス	① 三重交通(株)	・高速鳥羽・大宮線（鳥羽～大宮） ・特急バス路線 津伊勢空港連絡線（鳥羽～空港アクセス港）
	② 青木バス(株)	・あおぞらライナー（宇治山田～横浜～東京、宇治山田～金沢、宇治山田～仙台）
	③ WILLER EXPRESS(株)	・WILLER EXPRESS（伊勢市～新宿～横浜）
	④ (株)オリオンバスツアー	・オリオンバス（伊勢市～東京ディズニーランドバスターミナル・ウエスト）

※伊勢市内で上表以外にタクシー事業者の9社が営業中（令和3年現在：市内に事業所があるもの）

## ■公共交通の役割分担（（改訂）伊勢市地域公共交通網形成計画）

位置づけ	役割	対象路線
広域幹線	本市と市外や県外など広域的な移動を支える鉄道	JR参宮線、近鉄山田線、近鉄鳥羽線
都市間幹線	本市と周辺市町間など比較的広域的な移動を支えるとともに、市内の地区間の移動も担う主要なバス路線	地域公共交通確保維持改善事業において地域間幹線系統に位置づけられている民間バス路線など（南島線、中川線、伊勢玉城線、伊勢鳥羽線、御座線、伊勢宿浦線、伊勢五ヶ所線など）
地区間幹線	都市間幹線を補完し、市内各地区間の移動を担うバス路線	市内で完結する都市間幹線以外の民間バス路線（土路今一色線、イオンうぐいす台線、伊勢市内線、二見サンアリーナ線、神社線、大湊線、外宮内宮線、有滝線など）
市内環状線	各幹線と支線等を結び、主に本市の中心部を環状に運行する路線	おかげバス環状線
支線	地区間幹線を補完し、周辺地区間や地区外の最寄り駅など比較的小さな範囲の日常生活圏（買い物、病院、行政施設）の移動を担う路線	周辺地区間など日常生活圏を運行するおかげバス、おかげバスデマンド、沼木バスなどのコミュニティバス
観光交流軸	本市の玄関口である伊勢市駅と宇治山田駅、観光集客区域とを結び、観光客の移動の多い区間を運行するバス路線	伊勢市駅、宇治山田駅と観光集客区域、鳥羽方面とを結ぶ区間を運行する民間バス路線（外宮内宮線、伊勢市内線、CANばすなど）

## 第1章 都市の現況

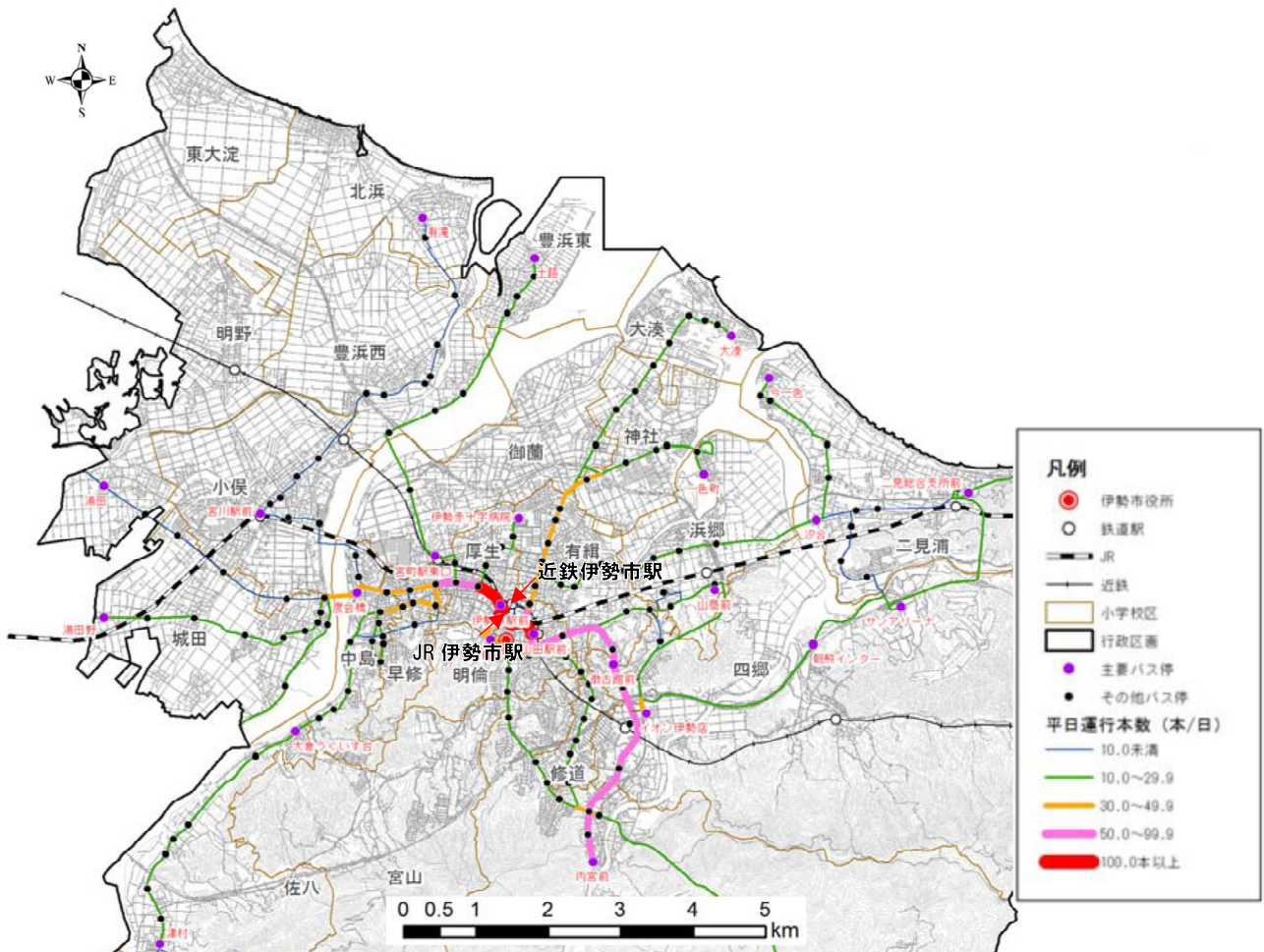
伊勢市内の公共交通は、伊勢市駅を中心に放射状に配置されています。

鉄道については、市内を近鉄山田線、近鉄鳥羽線、JR 参宮線が東西に延びており、中心市街地では、近鉄伊勢市駅、JR 伊勢市駅、近鉄宇治山田駅が隣接して立地しています。

路線バスについては、新道から伊勢市駅、宇治山田駅前間の本数が最も多く、1日あたり100本以上運行されています。また、内宮前を発着するバス路線の本数も多くなっています。

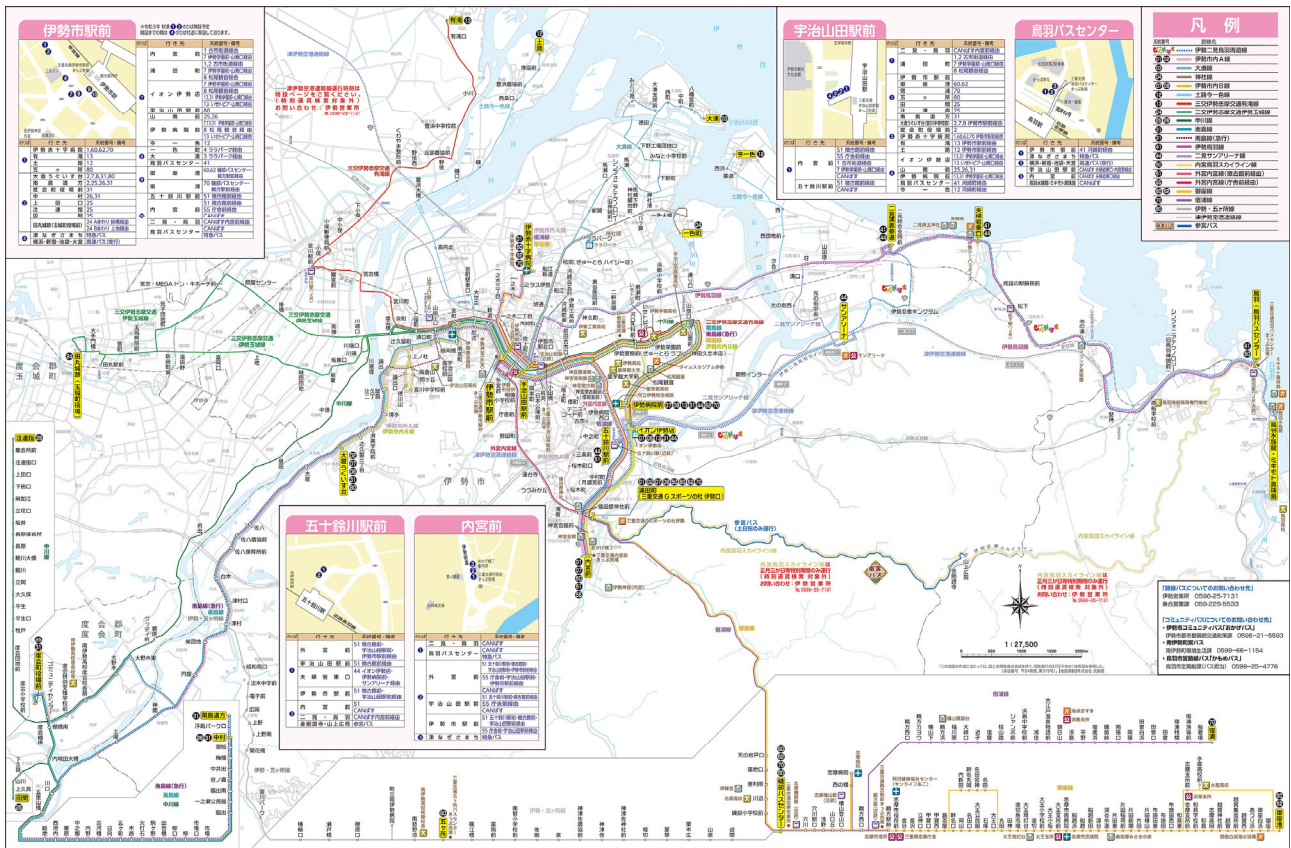
一方で、路線バスが行き届かないエリアを中心に、コミュニティバスが運行されています。

### ■公共交通ネットワーク

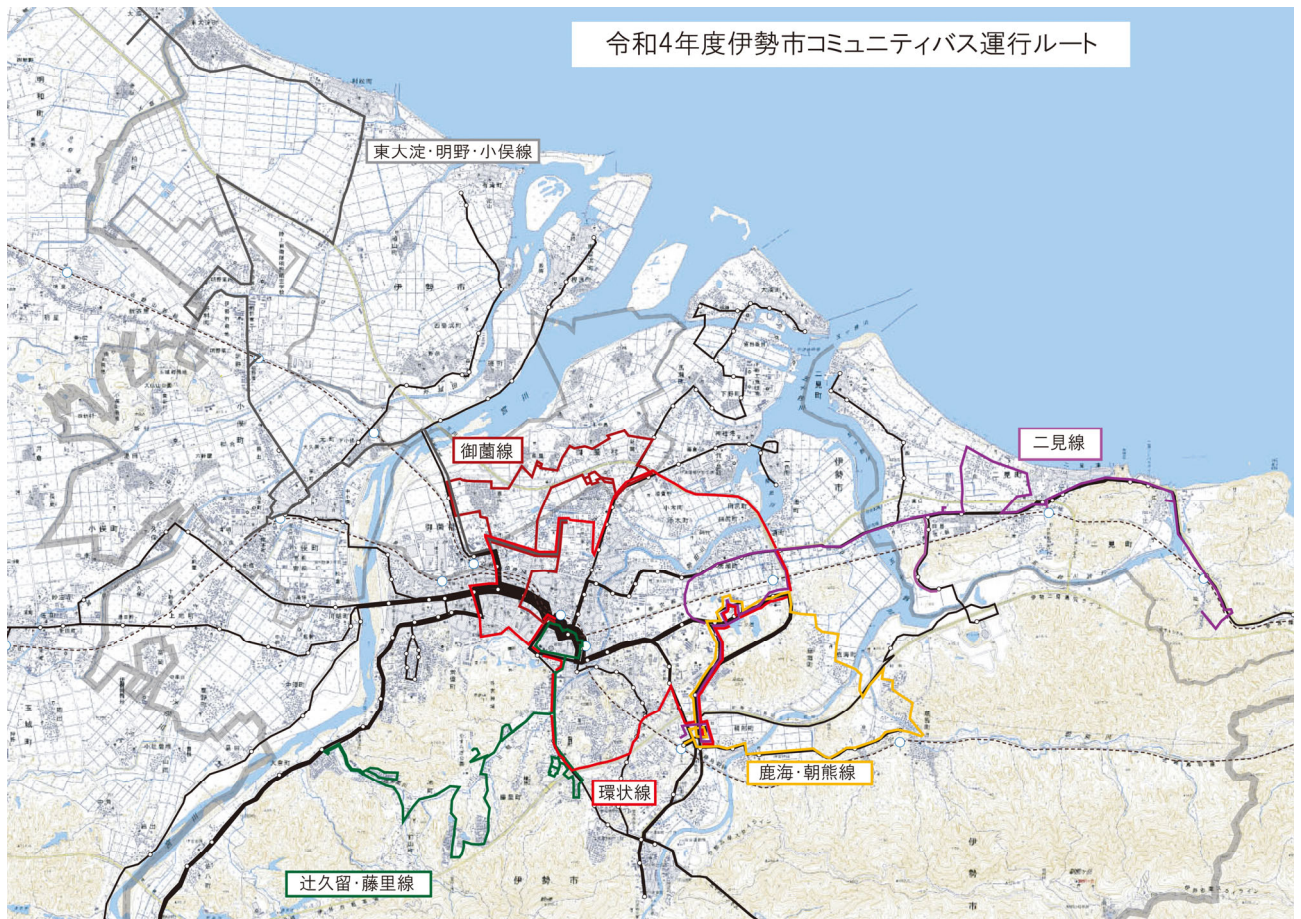


資料：(改訂)伊勢市地域公共交通網形成計画

【参考：路線バス・コミュニティバス路線詳細図】



※令和3年4月時点 資料：三重交通(株)

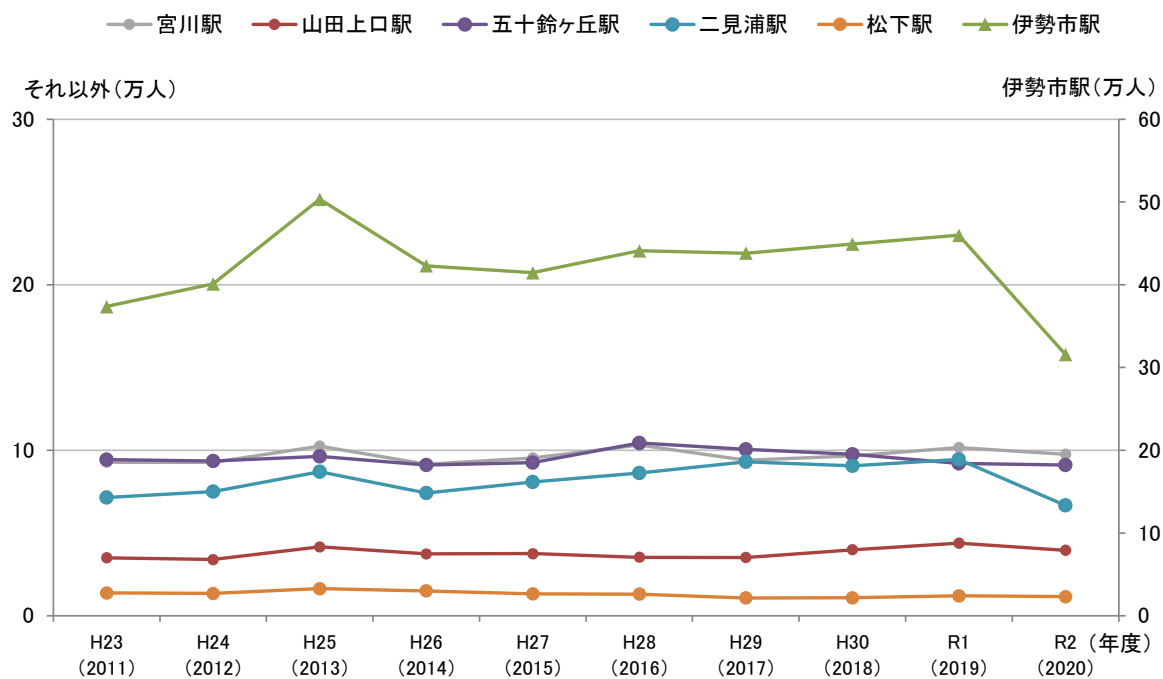


## 第1章 都市の現況

### (3) 鉄道の利用状況

伊勢市には、近鉄山田線、近鉄鳥羽線、JR 参宮線を合わせて 13 駅が立地しています。平成 25(2013)年度は、第 62 回神宮式年遷宮のため利用者が一時的に増加しました。多くの駅は概ね横ばいでしたが、令和 2(2020)年度はコロナ禍の影響により、多くの駅で利用者の減少が見られます。

#### ■JR 東海 乗客数の推移



資料：三重県統計書、JR 東海提供資料

#### ■JR 東海 各駅の一日常たりの平均乗降客数

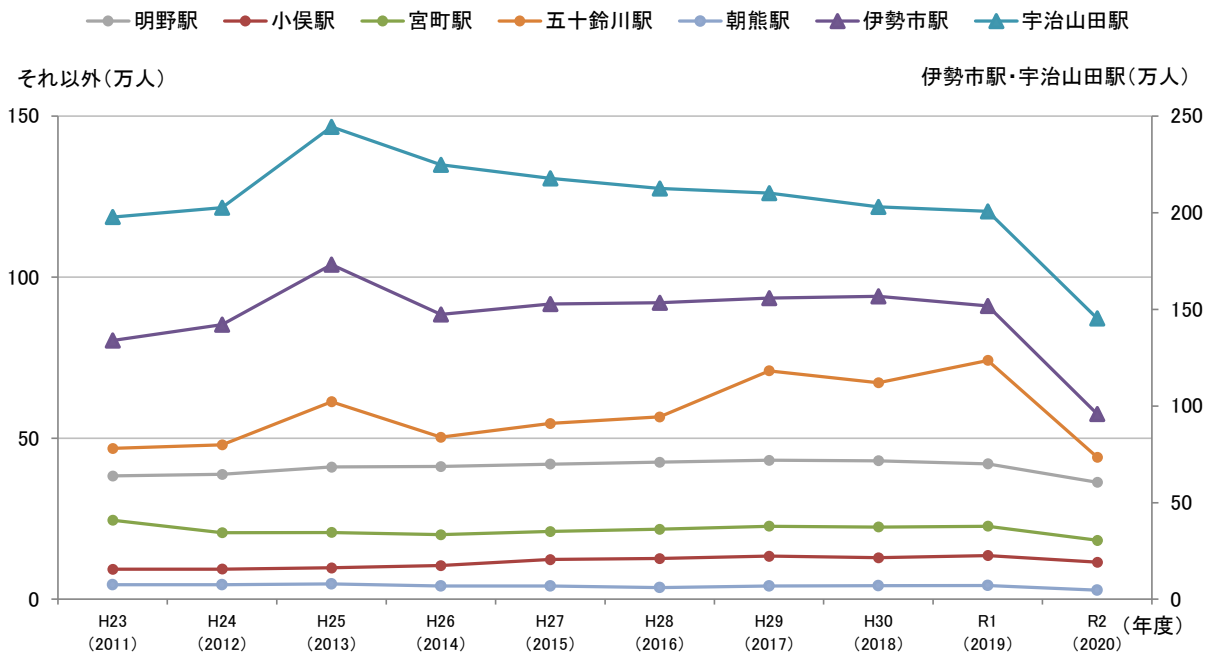
(単位：人)

	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	(年度)
宮川	506	508	562	502	522	564	516	530	558	535	
山田上口	192	186	228	206	206	194	192	218	240	217	
伊勢市	2,042	2,196	2,758	2,316	2,266	2,416	2,402	2,460	2,520	1,730	
五十鈴ヶ丘	516	512	528	500	506	572	550	536	504	499	
二見浦	390	410	476	406	442	472	510	496	518	366	
松下	76	74	90	82	72	72	60	60	66	63	

資料：三重県統計書、JR 東海提供資料の一日平均乗客数を 2 倍して算出



■近鉄 乗客数の推移



資料：三重県統計書、近畿日本鉄道㈱提供資料

■近鉄 各駅の一日当たり乗降客数

駅名	H22.11.9 (2010)	H24.11.13 (2012)	H27.11.10 (2015)	H30.11.13 (2018)	R3.11.9 (2021)
明野	2,090	1,891	1,949	2,061	1,735
小俣	660	720	665	746	598
宮町	1,645	1,284	1,204	1,227	986
伊勢市	6,360	6,626	7,681	7,727	5,479
宇治山田	8,382	8,403	8,870	8,650	6,812
五十鈴川	2,251	2,122	2,323	8,650	2,215
朝熊	168	165	128	132	132

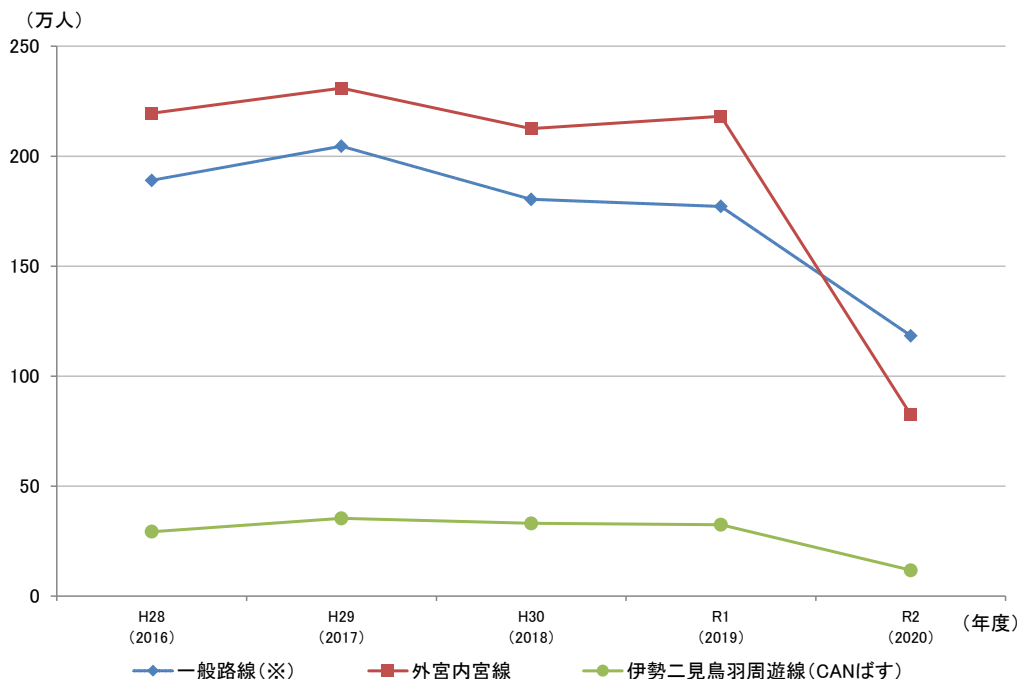
資料：近畿日本鉄道㈱提供資料

## 第1章 都市の現況

### (4) 路線バスの利用状況

観光客が利用する外宮内宮線の利用者は、市民が利用する一般路線の利用者よりも多い状況で推移していましたが、令和2(2020)年度はコロナ禍の影響により全体として利用者数は減少しています。

#### ■路線バス乗車数の推移(三重交通 伊勢営業所管内)



※H28年度より導入したICカード利用実績及び収入より換算した推計値により作成。  
H27年度以前は算出方法が異なるため経年比較不可。

※一般路線：外宮内宮線、伊勢二見鳥羽周遊線(CANばす)及び高速バスを除く路線  
資料：伊勢市地域公共交通網形成計画、三重交通資料

#### ■市内におけるバス車両のバリアフリー化状況

(R3.12現在)

分類		台数(台)	市内の車両全体に対する割合(%)
路線バス	ノンステップバス	33	55%
	ワンステップバス	19	32%
	リフト付きバス	2	3%
	その他	6	10%
	合計	60	100%
観光バス	リフト付きバス	1	6%
	その他	15	94%
	合計	16	100%

※路線バス、観光バスともに三重交通伊勢営業所と三交伊勢志摩交通車両の合計数

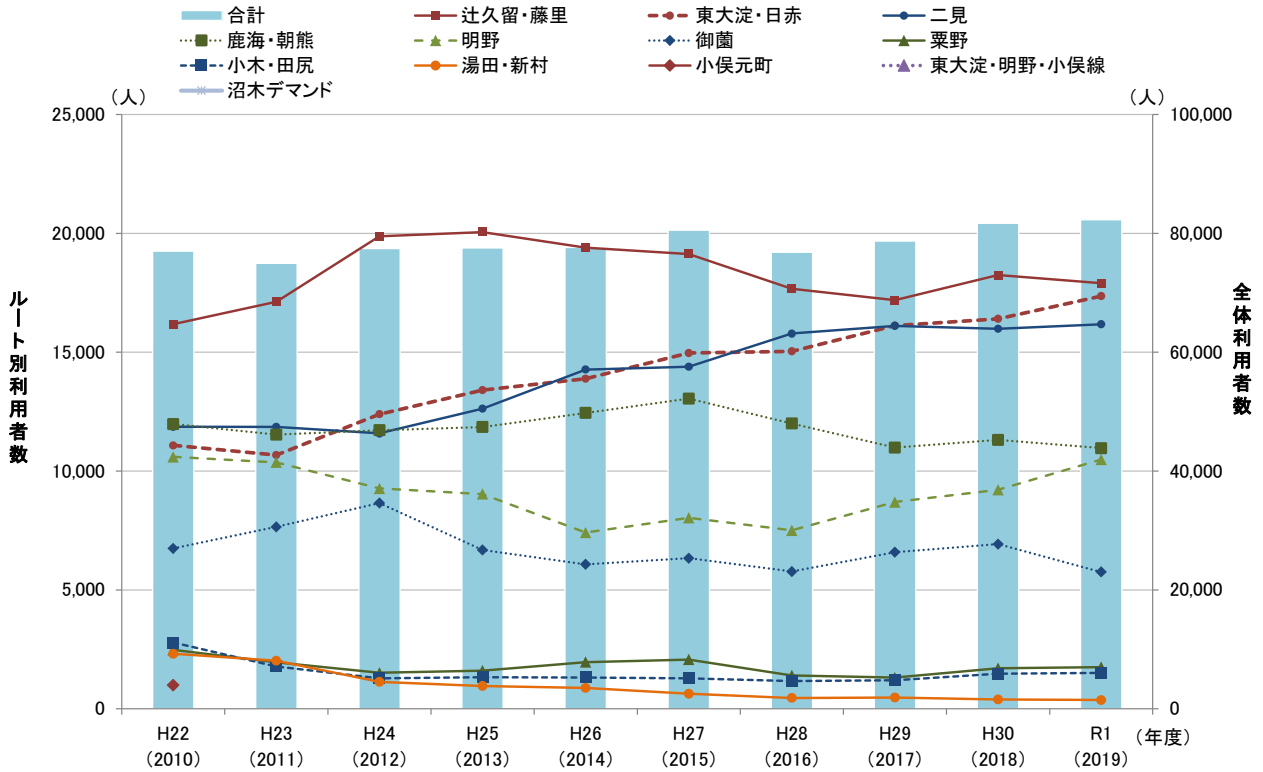
資料：三重交通提供資料

(5) コミュニティバスの利用状況

おかげバス・おかげバスデマンドは、公共交通空白地域の移動手段を確保し、だれもが利用しやすい公共交通を提供するため、平成19(2007)年4月から運行を開始しました。

近年の利用状況を見ると、東大淀・明野・小俣、二見、明野、御蔭、環状線の利用者数が増加しています。その他のルートは概ね横ばいか減少しており、全体の利用者数は増加傾向にあります。

■おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数の推移



※平成23(2011)年8月より、粟野、湯田・新村、小俣元町、小木・田尻の4ルートを粟野、湯田・新村・元町、小木・田尻の3ルートに再編し、路線定期運行からタクシー車両を利用したデマンド方式に変更。数値は路線定期運行とデマンド方式の合計値。  
 ※令和2(2020)年8月以降、路線の再編により経年比較不可。

資料：伊勢市交通政策課提供資料

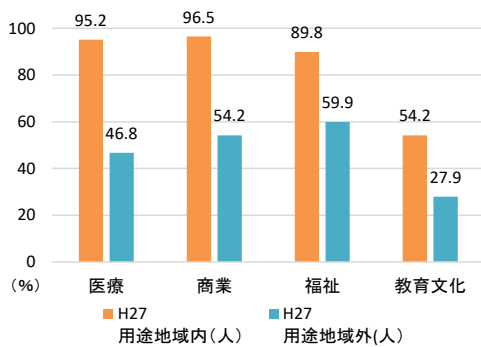
## 1-5 都市機能の立地状況

### (1) 都市機能の分布と人口密度、カバー状況

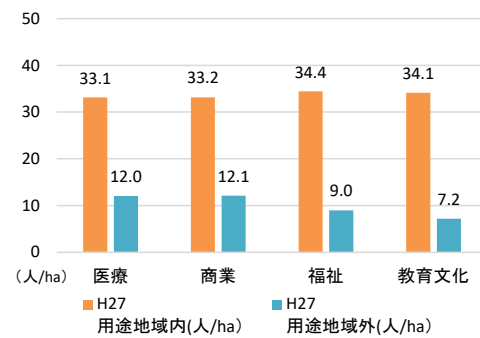
平成27年における都市機能の人口のカバー状況をみると、医療、商業、福祉は、用途地域内で概ね9割をカバーし、用途地域外においては、医療46.8%、商業54.2%、福祉59.9%と概ね5割をカバーしています。一方、教育文化は用途地域内で54.2%、用途地域外で27.9%に留まっています。

カバー圏内の人口密度をみると、医療、商業、福祉、教育文化は、いずれも用途地域内で概ね30人/haとなっています。用途地域外においては、概ね10人/haとなっています。

■各都市機能の人口のカバー状況



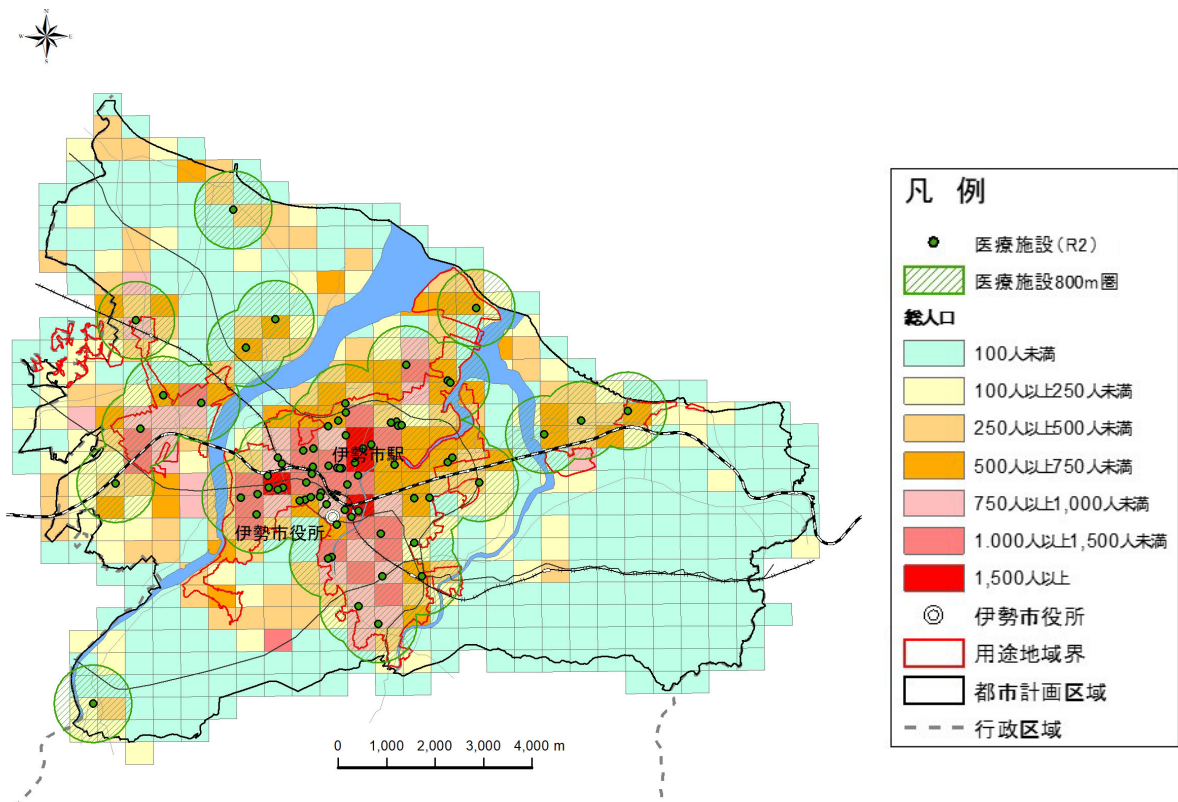
■各都市機能のカバー圏内の密度



※カバー圏域：各施設から半径800mの範囲

資料：国勢調査、平成29年4月日本の地域別将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)

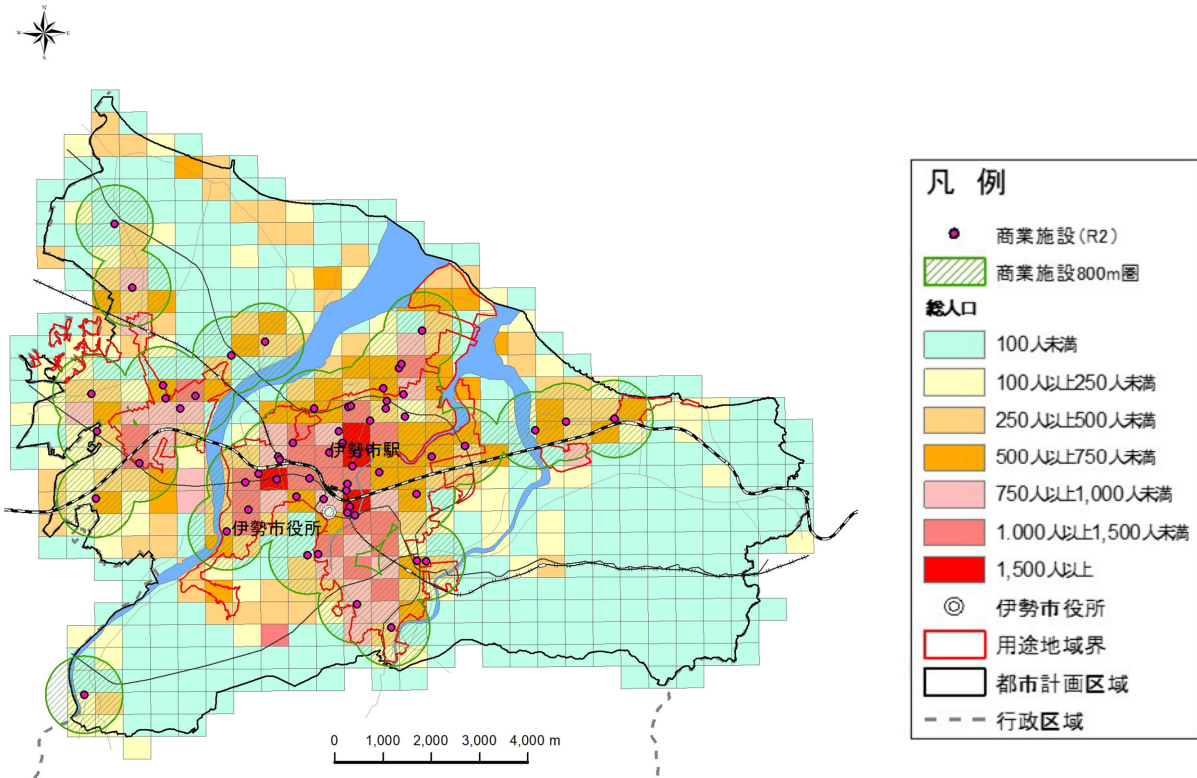
■医療施設の人口のカバー状況



資料：国勢調査、(一社)伊勢地区医師会HP

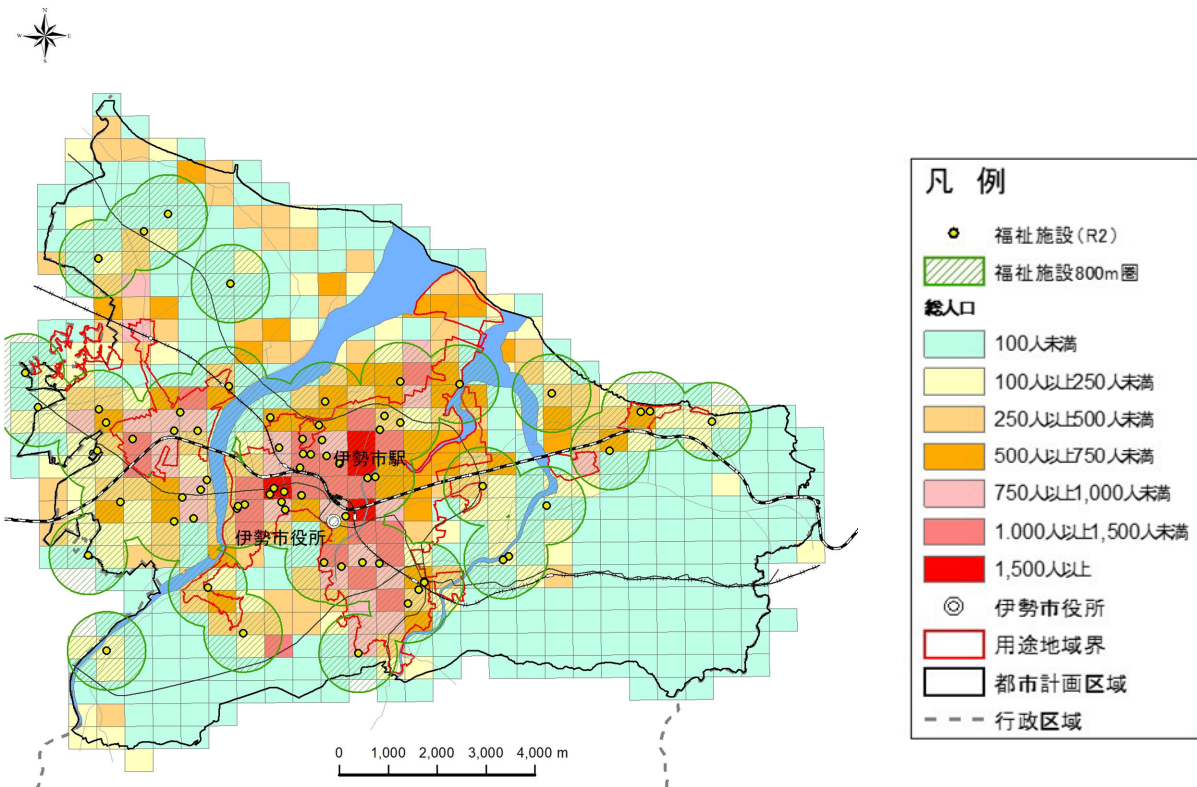
※令和4年6月時点で公表されていた平成27年国勢調査のメッシュデータを使用しています。

■商業施設の人口のカバー状況



資料：国勢調査、iタウンページ

■福祉施設の人口のカバー状況



資料：国勢調査、三重県（介護保険事業者・関係施設一覧）、伊勢市（介護サービス等事業者一覧、地域包括支援センター）

※令和4年6月時点で公表されていた平成27年国勢調査のメッシュデータを使用しています。

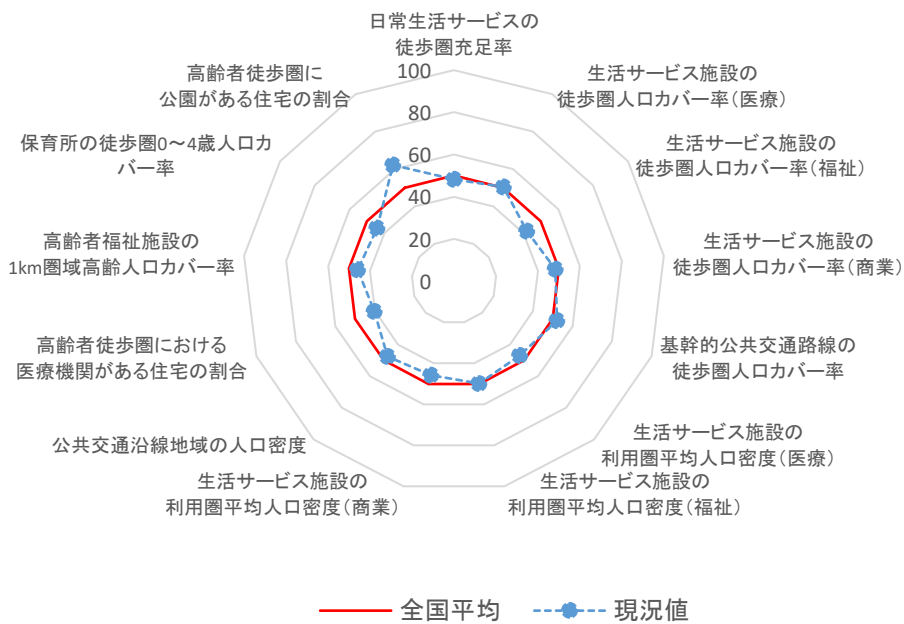
## 第1章 都市の現況

### (2) 他都市との比較による都市構造の評価

伊勢市における都市構造の特性を把握するため、「都市構造の評価に関するハンドブック（平成26年8月 国土交通省）」に基づき、生活利便性と健康維持・福祉環境について、伊勢市と概ね同等の人口規模を有する都市との比較検討を行いました。

その結果、生活利便性については、「生活サービス施設の徒歩圏人口カバー率（福祉）」は比較的 low、健康・福祉については、「高齢者徒歩圏に公園がある住宅の割合」は比較的高い一方で、「高齢者徒歩圏に医療機関がある住宅の割合」が低くなっています。

#### ■伊勢市の現況都市構造評価（10～40万人都市との比較）



#### 【偏差値レーダーチャートに関する用語の解説】

##### ◇日常生活サービス

以下の生活サービス施設（「医療施設」「商業施設」「福祉施設」）及び基幹的公共交通路線

##### ◇生活サービス施設

医療施設：病院・診療所で内科または外科を有する施設

商業施設：専門・総合スーパー、百貨店

福祉施設（高齢者福祉施設）：通所系・訪問系施設及び小規模多機能施設

##### ◇徒歩圏（利用圏）

一般的な徒歩圏である半径 800m、バス停は誘致距離を考慮し半径 300m

##### ◇充足率（徒歩圏人口カバー率）

伊勢市総人口に対する区域人口の割合

##### ◇基幹的公共交通路線

日 30 本以上のサービス水準を有する鉄道路線、バス路線

##### ◇公共交通沿線地域

基幹的公共交通路線における徒歩圏

##### ◇高齢者徒歩圏

高齢者の一般的な徒歩圏である半径 500m

資料：都市モニタリングシート（国土交通省）

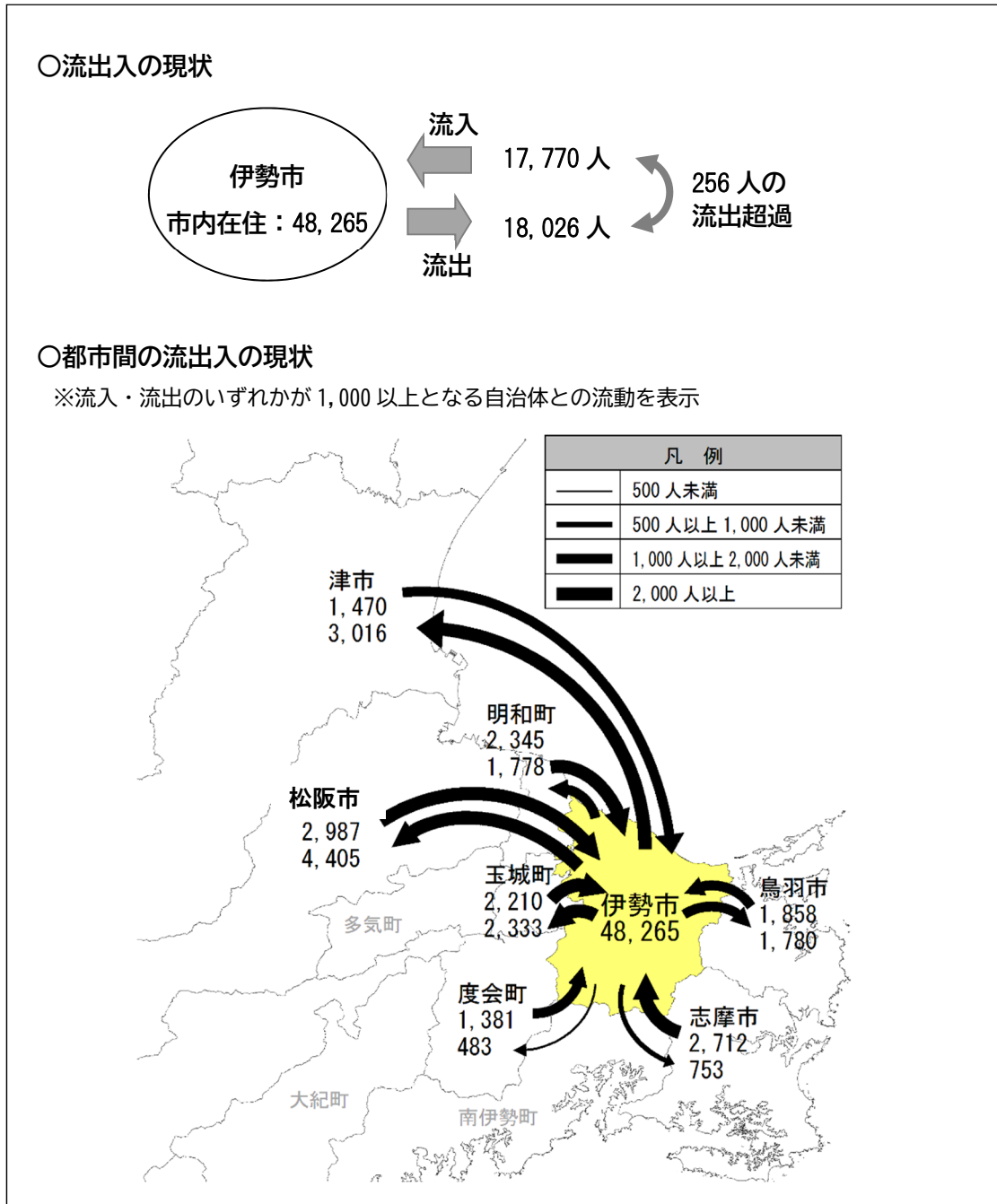
## 1-6 経済活動の動向

### (1) 通勤・通学流動

伊勢市の通勤通学の流動をみると、市内在住の通勤通学者数は 48,265 人に対して、他市町への流出は 18,026 人、他市町からの流入は 17,770 人で 256 人の流出超過となっています。

流出の方面としては、松阪市や津市といった伊勢市の北側の都市が多く、流入では、南側や東側の隣接市町が多い状況です。

#### ■伊勢市の主な通勤・通学流動



資料：平成 27 年国勢調査

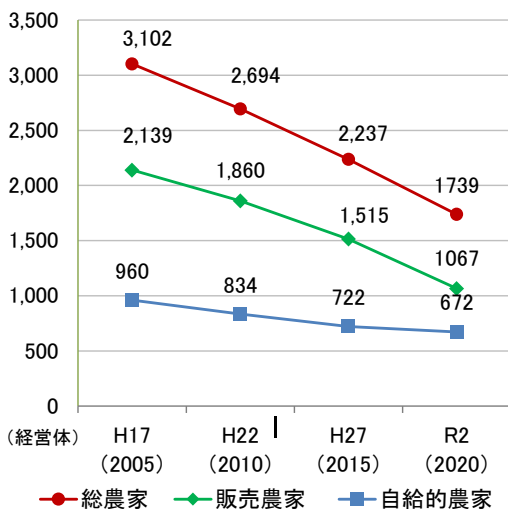
## 第1章 都市の現況

### (2) 農業・漁業の動向

農業経営体数の推移をみると、販売農家、自給的農家ともに減少傾向にあり、平成17(2005)年から令和2(2020)年の約15年間に総農家数は約4割減少しています。耕地面積も減少傾向にあり、15年間で約1割減少しています。このため、高齢化が進行する中で、農家1件あたりの耕地面積では増加傾向にあります。

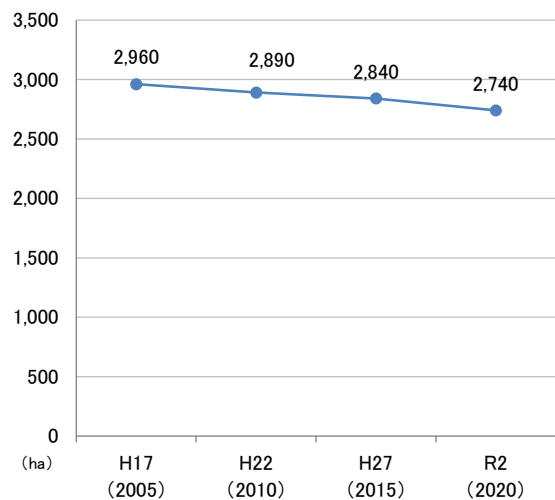
漁業経営体数の推移をみると、平成17(2005)年から平成30(2018)年の間に約8割減少しています。海面漁業・養殖業生産量は、平成17(2005)年から平成30(2018)年の13年間に約4割減少しています。

■農業経営体数の推移



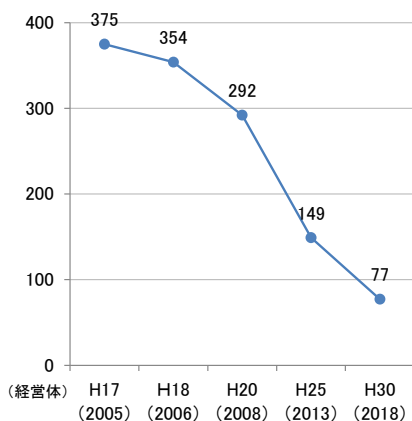
資料：農林業センサス

■耕地面積の推移



資料：東海農政局、三重県

■漁業経営体数の推移

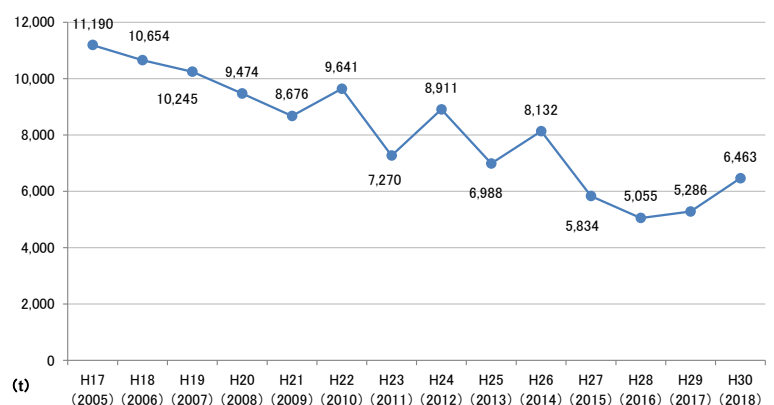


※平成20年は漁業センサス(漁業経営体統計)の結果  
平成19年より毎年の集計を廃止

※年間海上作業従事日数が30日未満の個人漁業経営体を除く

資料：農林水産省

■海面漁業・養殖業生産の推移



※「海面漁業漁獲量」と「海面養殖業収穫量」の合計

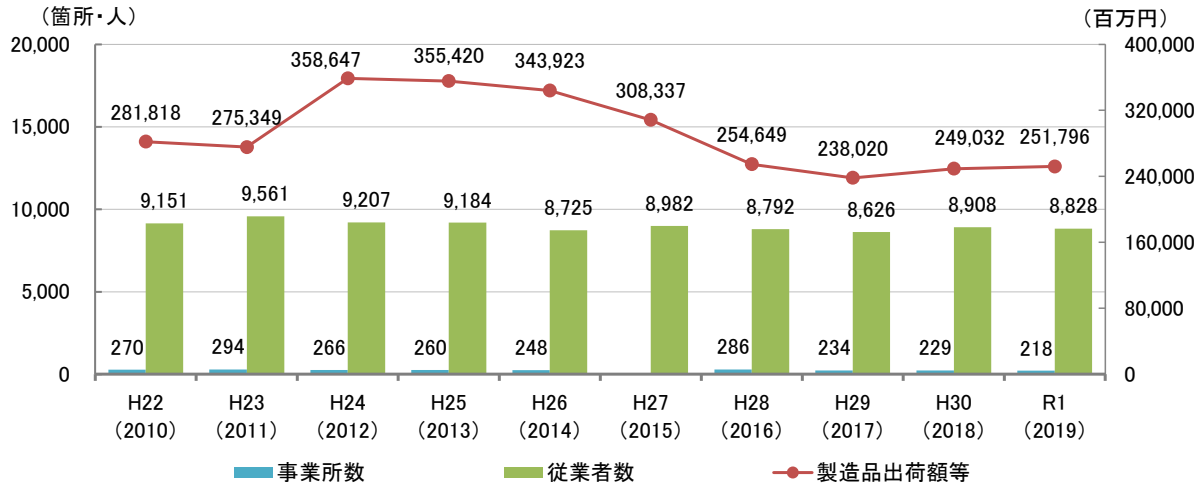
資料：東海農政局、三重県



(3) 工業の動向

製造品出荷額は、経済状況により各年で増減があるものの、長期的には減少しています。  
また、従業者数と事業所数は減少傾向です。

■伊勢市の工業に係る指標の推移

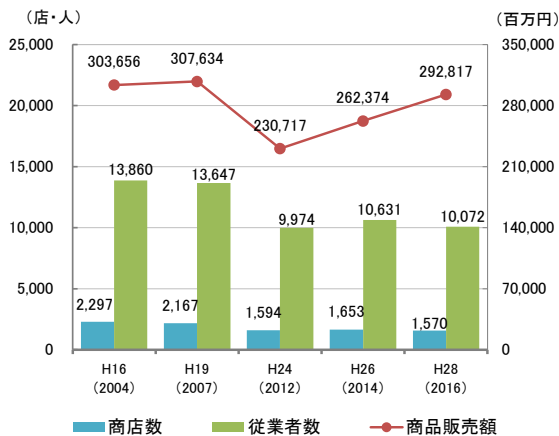


資料：工業統計

(4) 商業の動向

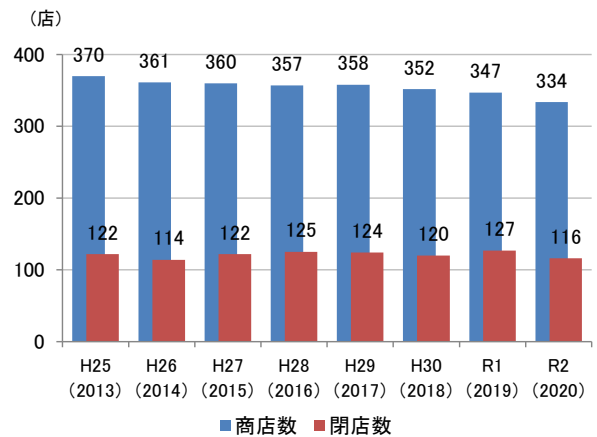
商品販売額等は、平成24年以降は増加しているものの、長期的には減少傾向にあります。  
中心市街地の店舗数は、近年、概ね横ばいで推移していますが、約1/3が閉店している状況です。

■伊勢市の商業に係る指標の推移



資料：商業統計調査、経済センサス活動調査

■中心市街地の店舗数の推移



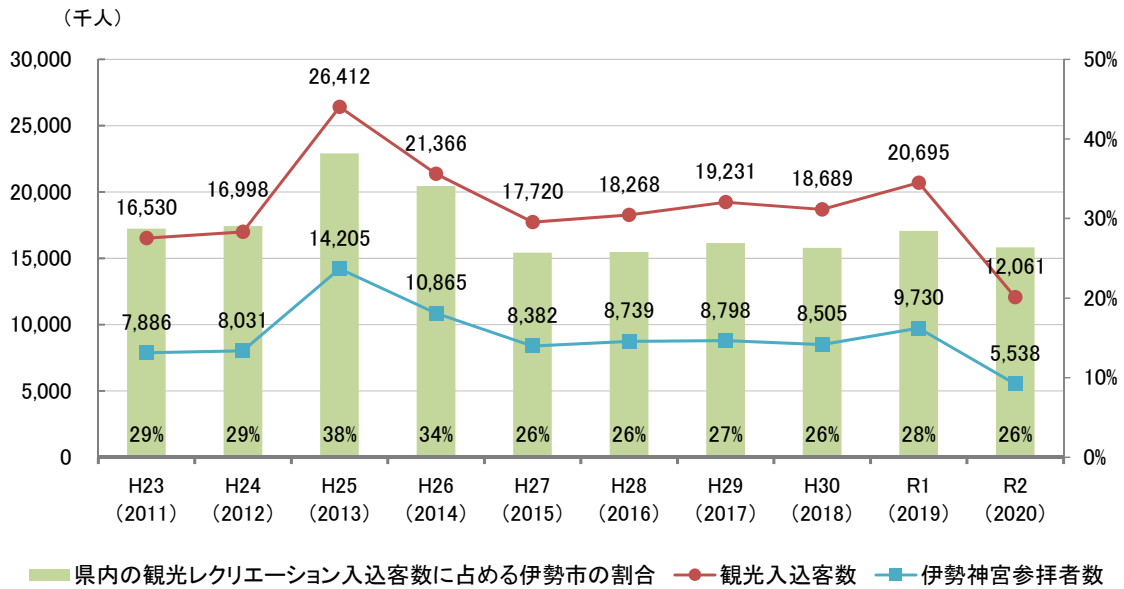
※調査方法：各年度とも市職員の目視による独自調査  
資料：伊勢市商工労政課資料

## 第1章 都市の現況

### (5) 観光の動向

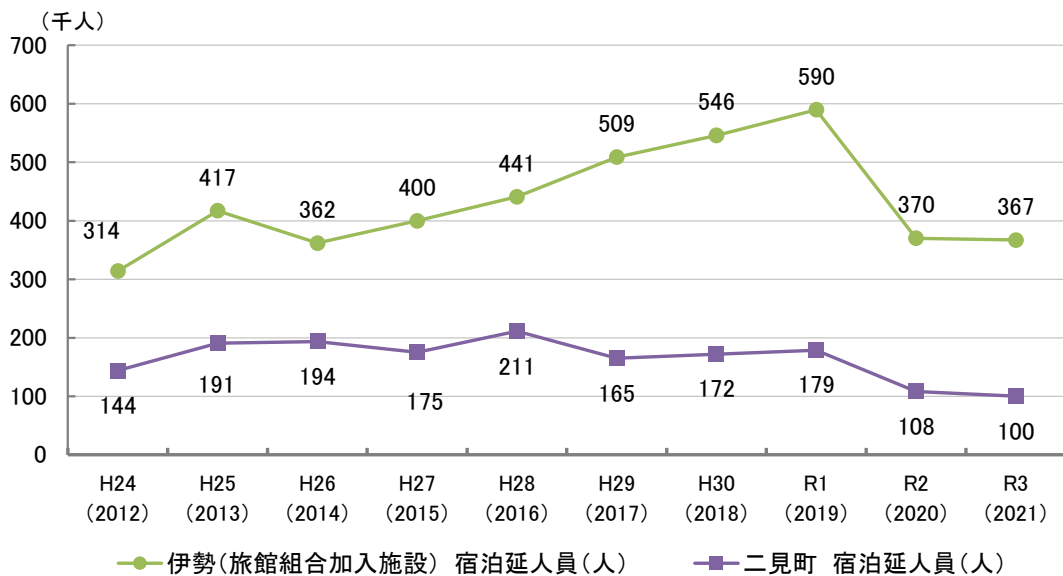
伊勢市は、三重県の観光入込客数の3割前後を占める有数の観光都市であり、平成25(2013)年の第62回神宮式年遷宮では、約2,600万人の観光客が来訪しています。観光入込客数及び宿泊者数は、長期的に見ると増加していましたが、令和2(2020)年度はコロナ禍の影響により減少しています。

#### ■伊勢市の観光入込客数の推移



資料：市町別及び地域別・月別入込客数(延数)

#### ■伊勢市の宿泊者数の推移



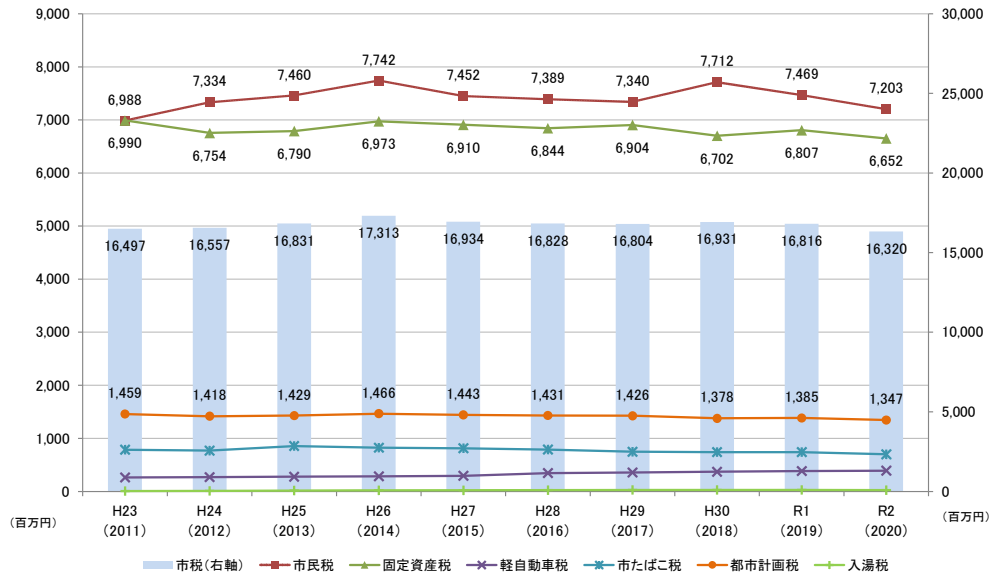
資料：伊勢市観光統計

## 1-7 財政状況

### (1) 歳入

市税の推移をみると、総額は、概ね横ばい傾向です。

#### ■市税額の推移

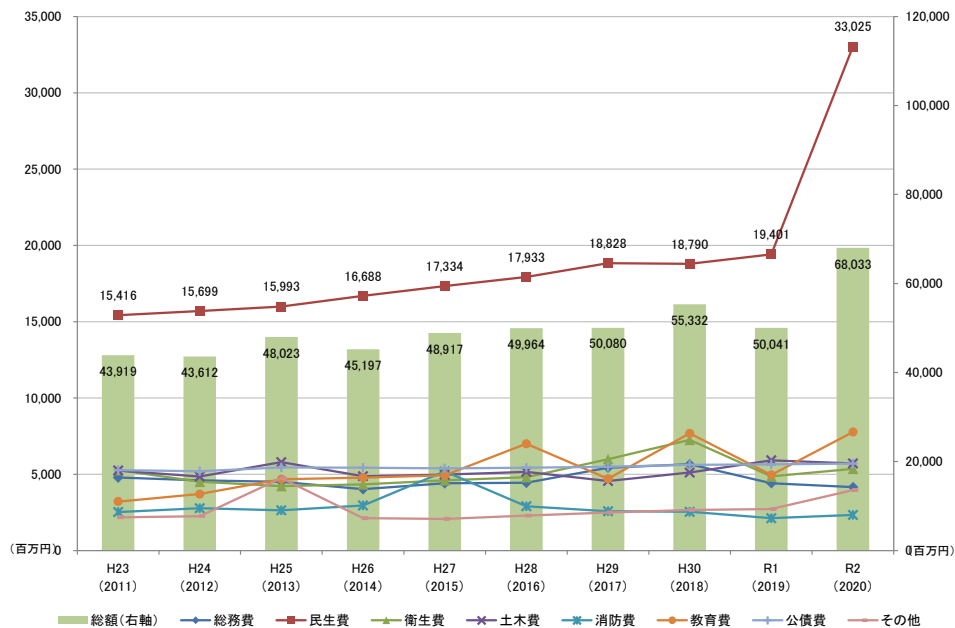


資料：伊勢市課税課資料

### (2) 歳出

目的別歳出の推移をみると、福祉等に支出する民生費が増加傾向にあり、令和2(2020)年度はコロナ禍の影響により大きく増加しています。

#### ■目的別歳出の推移



資料：伊勢市財政課資料

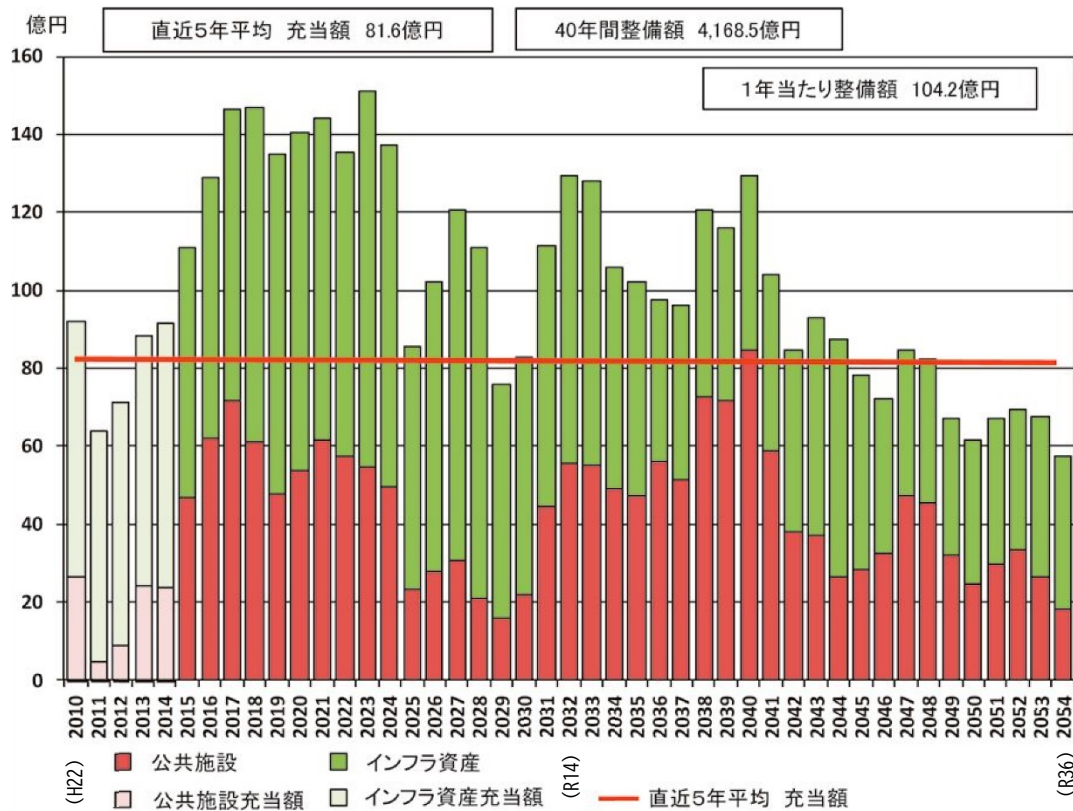
## 第1章 都市の現況

### (3) 公共施設等に係る更新経費の見通し

伊勢市公共施設等総合管理計画において、本市が現有する公共施設をそのまま持ち続けた場合の更新費用と、インフラ資産に対し長寿命化対策等を実施しないと仮定した場合の更新費等を合計すると、平成27(2015)年から令和36(2054)年までの40年間では約4,169億円が必要となり、1年あたりでは約104億円となります。

将来の人口推計を踏まえた財政状況を勘案すると、公共施設等に係る投資的経費を確保することは困難であることが容易に想像され、今後施設の整備及び維持更新の効率化が必要となります。

#### ■公共施設及びインフラ資産の将来の更新等の費用の推計



資料：伊勢市公共施設等総合管理計画

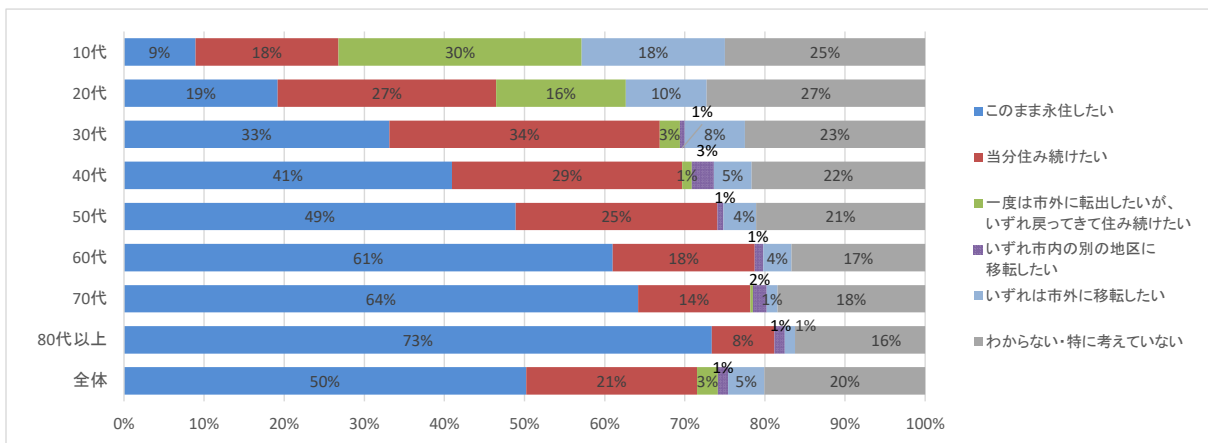
## 1-8 市民意向の把握

令和3年度伊勢市市民アンケート（令和4年2月）における市民の定住意向をみると、全体の74%の市民が「このまま永住したい」、「当分住み続けたい」、「一度は市外に転出したいが、いずれ戻ってきて住み続けたい」と回答しています。

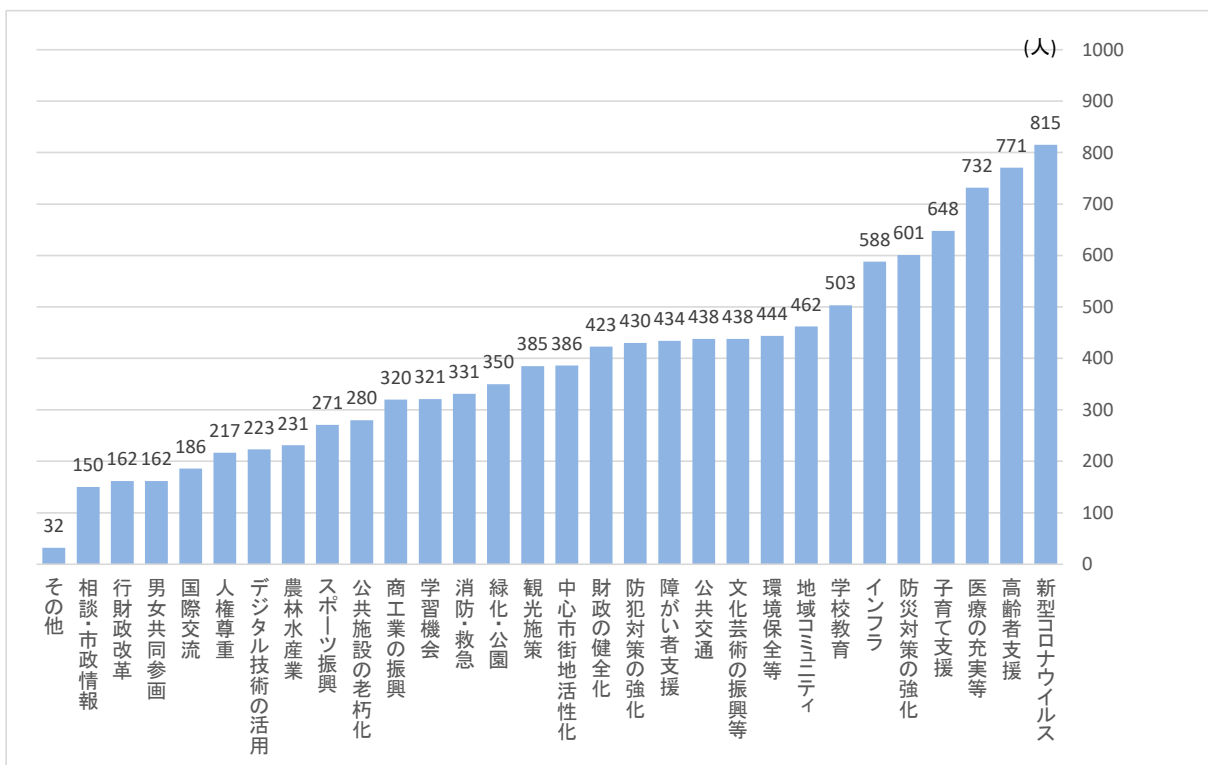
年齢別の傾向では、年齢が高いほど定住意向が高い一方で、10代の市民の約2割が「いずれは市外に移転したい」と回答しています。

また、市として取り組むべき事項では、コロナ禍の影響により高齢者支援や医療の充実等が上位を占める中、子育て支援や防災対策の強化、インフラへの関心が高くなっています。

### ■定住意向



### ■市として取り組むべき事項



資料：令和3年度伊勢市市民アンケート 集計結果報告書

